

平成 28 年度
香蘭女子短期大学・高松短期大学
相互評価報告書

平成 29 年 3 月



目次

1. はじめに	
香蘭女子短期大学 学長 坂根 康秀	1
高松短期大学 学長 佃 昌道	2
2. 香蘭女子短期大学・高松短期大学の概要	
香蘭女子短期大学 沿革・学科構成等	3
高松短期大学 沿革・学科構成等	5
3. 相互評価の実施にあたって	
相互評価に関する協定書	7
相互評価実施要領	8
4. 評価訪問調査スケジュール	
(1) 高松短期大学による香蘭女子短期大学への訪問調査	9
(2) 香蘭女子短期大学による高松短期大学への訪問調査	10
5. 両短期大学に対する質問事項と回答	
(1) 高松短期大学から香蘭女子短期大学への質問事項 (Q) とその回答 (A)	11
(2) 香蘭女子短期大学から高松短期大学への質問事項 (Q) とその回答 (A)	35
6. 相互評価結果	
(1) 香蘭女子短期大学に対する総括講評	53
(2) 高松短期大学に対する総括講評	53
7. あとがき	
高松短期大学 ALO 出木浦 孝	55
香蘭女子短期大学 ALO 濱田 尚志	55

高松短期大学と香蘭女子短期大学の相互評価

1. はじめに

高松短期大学と香蘭女子短期大学はそれぞれ40年以上の歴史を持つ短期大学です。これまでも短期大学基準協会の第三者評価をそれぞれ2回受審しています。今回、高松短期大学に本学より相互評価をお願いしたところ、大変快くお受けいただきました。佃昌道学長先生、ALO出木浦孝先生をはじめとする皆様には深く感謝申し上げます。

今回の相互評価では、第三者評価第2クールでの評価を受けた後の取り組みについて、自己点検・評価報告書を作成し、それぞれ書面調査及び訪問調査を行いました。第三者評価におけるそれとは異なり、じっくりと互いの置かれた環境の違いを理解し、独自の取り組みについて学ぶ機会となりました。報告書を読み込んだのち、書面での質疑応答を行い、その後、交互に訪問調査を行いました。訪問メンバーはそれぞれ顔なじみになり、短期大学教育に取り組む「ピア」として、率直な意見交換を行うことにより様々な学びを得て、これからの教育へのヒントをいただくことができました。

本学においては得るものが非常に多くありましたが、高松短期大学の取り組みを本学側が正確に把握できたかどうかは不安も残ります。十分に理解出来ていない点についてはご容赦願う次第です。

相互評価は義務づけられてはいないものの、自校の取り組みに対してピアの精神で率直に指摘いただくことにより改革・改善に寄与するものであります。我々は入学してきた学生達をしっかりと教育し、社会に送り出さねばならないという責務があります。そして一人ひとりの学生が力を付け、満足して卒業していくことを目指さなければなりません。そのためには、教育改革が必要であり、各員が知恵を絞り、改革・改善を継続することが求められています。

短期大学への進学者数が減少し、また入学してくる学生層も大きく変化してきているなど、短期大学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、高松短期大学も香蘭女子短期大学も切磋琢磨して難局を乗り越え、共に発展することを祈念いたします。

香蘭女子短期大学
学長 坂根 康秀

香蘭女子短期大学と高松短期大学の相互評価

はじめに

大学は、高等教育機関として、教育研究活動を充実・発展させることを社会的使命とし、その実現に向け不断の自己改革が求められています。

現代における少子高齢（化）社会・多様化・グローバル化の急激な進展など、大学を取り巻く環境は大きく変化し、大学の在り方も多様性や専門性が求められています。このような現状において、大学は自ら不断に点検評価を行い、改善を図ることは、その社会的使命に応えるためにも不可欠であります。

本学は、平成26年に一般財団法人短期大学基準協会における第三者評価を受審し、「適格」と認定され、次の第三者評価受審までに、相互評価を実施することが課題でありました。そのような折、平成28年春に、香蘭女子短期大学の濱田尚志先生より、香蘭女子短期大学「ファッション総合学科」、「食物栄養学科」、「保育学科」、「ライフプランニング総合学科」と、本学「保育学科」、「秘書科」との間での相互評価の打診がありました。本学としては、時宜にかなったお話であり、早速、学内での諸手続きを済ませて申し出を受け、約1年間の歳月をかけ、ここに報告書を発刊するに到りました。この間の経過は本文に記載された通りであります。

今回の相互評価では、選択した両短期大学がお互いを信頼し、ピアレビューの精神を十分に理解した上で、適切に評価が実施されるように注意を払いました。評価の範囲は一般財団法人短期大学基準協会の実施要領に準じ、「基準Ⅱ」および「選択的評価基準」を対象とし、「建学の精神」や「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」の3つの方針、学生数、施設・設備、短期大学を取り巻く環境などを十分に理解し、書面および訪問調査を行いました。

特に、訪問調査においては、双方の対話により、大学人としての認識や教育に対する考え方が確認され、相互の信頼がうまれることにより、忌憚のない意見が交わされ、評価にそのことを反映することができました。

今回の相互評価の第一の成果は、限られた数名の教員ではありましたが、香蘭女子短期大学の教育現場の実態に触れ、種々の視点から多くを学ばせていただいたことにあります。坂根康秀学長先生を始め教職員の皆様に感謝すると共に、これを機会に香蘭女子短期大学と本学の多岐にわたる様々な交流が一層深まることを期待しております。

結びに、両短期大学の関係者の協力のもと、相互評価の成果としての報告書が発刊できますことは大変大きな喜びであり、関係各位のご尽力に心より感謝と御礼を申し上げます。

高松短期大学
学長 佃 昌道

2. 香蘭女子短期大学・高松短期大学の概要

■香蘭女子短期大学 概要・沿革・学科構成等（平成28年5月1日現在）

教育機関名 香蘭女子短期大学
 所在地 福岡県福岡市南区横手1丁目2番1号
 理事長名 坂根 康秀
 学長名 坂根 康秀

教育機関名	入学定員	収容定員	在籍者数
香蘭女子短期大学			
ファッション総合学科	100 (125)	225	133
食物栄養学科	80 (50)	130	122
保育学科	150 (150)	300	347
ライフプランニング総合学科	190 (200)	390	243

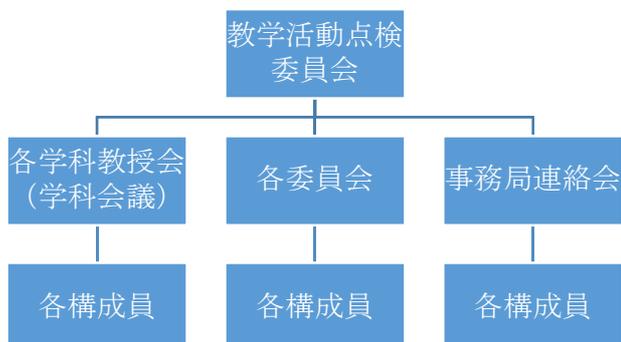
※入学定員の括弧は2年生の入学定員である。

自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

本学では、自己点検・評価を行う機関として平成4年度より『教学活動点検委員会』を設置している。メンバーは下記のとおりである。

教学活動点検委員会
委員長 学長（理事長）
委員 副学長（食物栄養学科長兼務）、図書館長、学生部長、学生部次長、ファッション総合学科長、保育学科長、ライフプランニング総合学科長、国際化推進委員長、教務委員長、FD・SD委員長、募試委員長、事務局長

自己点検・評価の組織図



学校法人山内学園の沿革の概要

- 昭和10年 5月 「レデードレス香蘭女学院」開校
- 昭和20年12月 「レデードレス香蘭女学院再開」
- 昭和21年 9月 「香蘭女学院設立認可」（個人立）
- 昭和23年 1月 「財団法人香蘭女学院設立認可」（理事長 山内守人）
- 昭和26年 3月 「準学校法人として認可を受ける」
- 昭和33年 1月 学校法人認可（理事長・学長 山内良子）「香蘭女子短期大学被服科設置認可」
- 昭和42年 4月 「香蘭女子短期大学附属幼稚園開園」（園長 坂根潔）
- 昭和51年 9月 「専修学校法の制定により香蘭女学院を専修学校に組織変更」
- 昭和63年12月 「那珂川第一幼稚園吸収合併」
- 平成元年 4月 「香蘭女学院の校名を香蘭ファッションデザイン専門学校に変更」
- 平成11年 4月 「那珂川第二幼稚園開園」

香蘭女子短期大学の沿革の概要

- 昭和33年 4月 「香蘭女子短期大学開校」
- 昭和38年 4月 「家政科（入学定員50名）増設」
- 昭和40年 4月 「保育科（入学定員50名）増設と井尻新校舎落成」
- 昭和41年 1月 「保育科に保育を養成する学校の指定を受ける」
- 昭和43年 4月 「家政科を専攻分離」
- 昭和47年 4月 「被服科移転及び定員増」
- 昭和50年10月 「被服科二部を廃止」
- 昭和51年 4月 「保育科、家政科の定員増」
- 昭和58年 4月 「秘書科増設及び入学定員変更」
- 昭和59年12月 「実践家政経済専科学校（現：実践設計管理学院）と姉妹校提携」
- 昭和60年 3月 「東洲女子専門大学（現：東洲大学校）と姉妹校提携」
- 昭和61年 6月 「米国の2つの大学と姉妹校提携」
- 昭和62年 4月 「国際教養科（入学定員100名）増設及び入学定員変更」
- 平成11年 4月 「米国ウイスコンシン州立リバーフォールズ大学と姉妹校提携」
- 平成14年 7月 「ライフプランニング総合学科の地域総合科学科認定」
- 平成15年 4月 「ライフプランニング総合学科の設置と学科名称変更・入学定員変更」
- 平成15年 7月 「被服学科の地域総合科学科認定」
- 平成18年 3月 「財団法人短期大学基準協会による17年度第三者評価の結果、適格と認定される」
- 平成20年 4月 「被服学科をファッション総合学科に名称変更」
- 平成22年 4月 「テクニカル専攻科設置、ファッション総合学科及びライフプランニング総合学科入学定員変更」
- 平成28年 4月 「ファッション総合学科、食物栄養学科及びライフプランニング総合学科入学定員変更」

■高松短期大学 概要・沿革・学科構成等（平成28年5月1日現在）

教育機関名 高松短期大学
 所在地 香川県高松市春日町960番地
 理事長名 佃 昌道
 学長名 佃 昌道

教育機関名	入学定員	収容定員	在籍者数
高松短期大学			
保育学科	80	160	112
秘書科	70	140	112
専攻科（幼児教育学専攻）	5	5	0

自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

高松大学・高松短期大学自己評価委員会規程に基づき、下表を委員とする自己評価委員会を組織している。

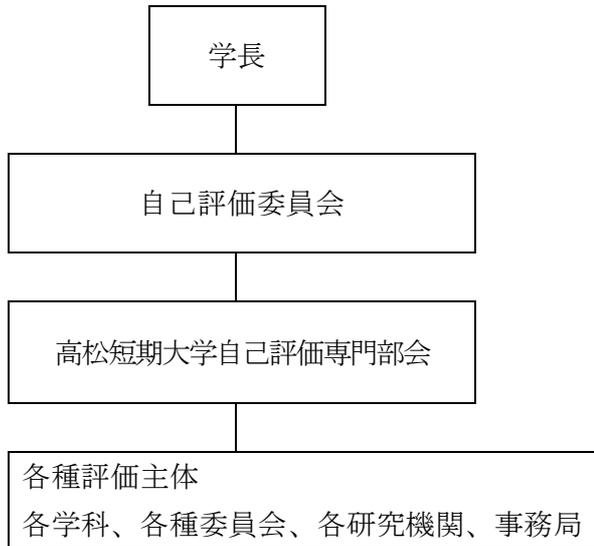
また、高松大学・高松短期大学における自己点検・評価報告書の作成、第三者評価に関わる事項等を専門的に検討するため、平成26年6月に「高松短期大学自己評価専門部会」を組織した。

自己評価委員会
委員長 学長 委員 副学長、研究科長、高松大学各学部長、高松短期大学各学科長、学生支援部長、学生支援部次長（教務担当）、学生支援部次長（学生担当）、学生支援部次長（キャリア支援担当）、附属図書館長、入学センター長、情報処理教育センター長、生涯学習教育センター長、地域経済情報研究所長、ベンチャークリエーション研究所長、子ども研究所長、地域連携センター長、事務局長

高松短期大学自己評価専門部会
部会長 副学長 委員 副学長、学生支援部長、保育学科学科長、秘書科学科長、学生支援部次長（教務担当）、第三者評価連絡調整責任者、保育学科、秘書科から互選された教員、その他部会長が必要と認めた者

自己点検・評価の組織図

自己点検・評価の組織図



学校法人四国高松学園の沿革の概要

昭和 43(1968)年 6 月	学校法人高松学園認可〔高松東幼稚園経営〕
昭和 44(1969)年 4 月	高松短期大学開学
昭和 46(1971)年 1 月	法人の名称を「四国高松学園」に変更
平成 8 (1996)年 4 月	高松大学開学
平成 12(2000)年 4 月	高松大学大学院開学

高松短期大学の沿革の概要

昭和 44(1969)年 4 月	高松短期大学開学（児童教育学科開設）
昭和 46(1971)年 4 月	保育科第二部開設
昭和 47(1972)年 4 月	専攻科（児童教育学専攻）開設
昭和 51(1976)年 4 月	音楽科開設
昭和 55(1980)年 4 月	専攻科（音楽専攻）開設
昭和 58(1983)年 4 月	秘書科開設
平成 6 (1994)年 5 月	保育科第二部廃止認可
平成 10(1998)年 4 月	幼児教育学科開設（児童教育学科の改組転換）
平成 11(1999)年 12 月	児童教育学科廃止認可
平成 12(2000)年 4 月	専攻科（幼児教育学専攻）開設（児童教育学専攻の改組転換）
平成 15(2003)年 4 月	幼児教育学科を保育学科に名称変更
平成 20(2008)年 4 月	高松短期大学音楽科の学生募集停止
平成 22(2010)年 3 月	高松短期大学音楽科の廃止
”	高松短期大学専攻科（音楽専攻）の廃止

3. 相互評価の実施にあたって 相互評価に関する協定書

香蘭女子短期大学と高松短期大学との 相互評価に関する協定書

香蘭女子短期大学と高松短期大学は、両短期大学の教育・研究の質的向上を図るため、相互評価を実施することに同意し、次のとおり協定を締結する。

1. 相互評価に関する協定

相互評価は、教育・研究の改革及び改善の内容と、今後の取り組むべき課題等について相互に評価し、両短期大学の教育・研究の更なる充実、発展に資することを目的とし、実施する。

2. 相互評価の実施方法

両短期大学で合意した実施要領により相互評価を行う。

3. 相互評価についての報告書の作成

相互評価に関する報告書を作成し、公表する。

4. 短期大学基準協会への報告書の提出

相互評価に関する報告書を作成し、短期大学基準協会へ提出する。

5. 協定書の有効期間

この協定の有効期間は、締結の日から平成29年3月31日までとする。ただし、両短期大学で協議のうえ、延長することができるものとする。

6. この協定に定めのない事項、若しくはこの協定の解釈に疑義が生じた事項については、両短期大学でその都度協議し、解決する。

この協定を証するため、協定書2通を作成し、両短期大学長が署名捺印のうえ、各自1通を保有する。

平成28年9月30日

学校法人山内学園
香蘭女子短期大学

学長 攻根 康秀



学校法人四国高松学園
高松短期大学

学長 佃 昌道



相互評価実施要領

1. 相互評価の目的

香蘭女子短期大学と高松短期大学は、両短期大学の教育・研究の質的向上を図るため、各短期大学で行った自己点検・自己評価に基づき、教育研究の改革及び改善の内容と今後の取り組むべき課題等について相互に評価することにより、さらなる充実・発展に資することを目的とする。

2. 相互評価の実施校・対象学科

相互評価の実施校と対象学科は、次のとおりとする。ただし、専攻科については、対象としないこととする。

香蘭女子短期大学	ファッション総合学科	食物栄養学科
	保育学科	ライフプランニング総合学科
高松短期大学	保育学科	秘書科

3. 評価項目・内容

一般財団法人短期大学基準協会の実施要領に準じ、「基準Ⅱ」および「選択的評価基準」を対象とする。

4. 相互評価の実施方法

両短期大学は、相互評価について自己評価委員会等が掌握し、第三者評価連絡調整責任者（ALO）が連絡、調整を行う。

両短期大学が相互評価に必要な資料をあらかじめ送付する。なお、必要書類の詳細については事前に調整する。

評価項目・内容について、書面により質問及び回答を送付する。

相互に訪問して、書面による回答内容の確認及び学内視察を行う。

5. 相互評価報告書の作成・公表

両短期大学は相互評価の結果をまとめ、相互評価報告書を作成、公表するとともに、短期大学基準協会へ報告書を提出する。

6. 相互評価の実施期間

平成28年9月30日から平成29年3月31日までとする。ただし、両短期大学で協議のうえ、延長することができる。

4. 評価訪問調査スケジュール

(1) 高松短期大学による香蘭女子短期大学への訪問調査

平成 29 年 2 月 22 日 (水) 訪問調査

日 程	内 容
9 : 30～10 : 00	ALO との打合せ・資料等の準備・確認等
10 : 00～12 : 00	評価員挨拶・香蘭女子短期大学理事長挨拶 面接調査 (3号館 1階 第3会議室)
12 : 00～12 : 45	昼食休憩
12 : 45～13 : 45	学内視察
13 : 45～14 : 00	報告書作成等に関する打合せ
14 : 00～14 : 30	講評

高松短期大学からの調査員

学生支援部長	澤田 文男 准教授
保育学科長・ALO	出木浦 孝 教授
秘書科学科長	関 由佳利 教授
保育学科	中村 多見 准教授
秘書科	森 靖之 教授
企画課企画係	金田 一耕 主任

香蘭女子短期大学面接調査対応者

理事長・学長	坂根 康秀
副学長・食物栄養学科長	豊崎 俊幸
図書館長	服部 研二
学生部長	森永 哲二
学生部次長	中濱 雄一郎
ファッション総合学科長	坂元 美貴子
保育学科長	河野 博行
ライフプランニング総合学科長	藤岡 健
国際化推進委員長	西表 宏
FSDS 委員長	遠矢 幸子
ALO・教務委員長	濱田 尚志
事務局長・庶務課長	内野 太
経理課長・ALO補佐	水流園 透
入試広報課長	篠原 慶朗
学生課長	鹿田 泰弘
教務課長	松本 秀一
教務課主任	古賀 政彦

(2) 香蘭女子短期大学による高松短期大学への訪問調査

平成 29 年 2 月 24 日 (金) 訪問調査

日 程	内 容
13 : 00～15 : 00	面接調査 (本館 6 階大会議室) 藤岡教授挨拶、学長挨拶
	休憩
15 : 00～16 : 00	学内見学
15:45	面接調査対応者 大会議室集合
16 : 00～16 : 30	大会議室にて講評後、小会議室にて今後の打合せ
16:30	高松短期大学発

香蘭女子短期大学からの調査員

ライフプランニング総合学科長	藤岡 健 教授
保育学科長	河野 博行 教授
保育学科・A L O	濱田 尚志 教授
教務課	古賀 政彦 主任

高松短期大学面接調査対応者

学長	佃 昌道
副学長	藤原 フサエ
学生支援部長	澤田 文男
保育学科学科長・A L O	出木浦 孝
秘書科学科長	関 由佳利
秘書科教授	森 靖之
保育学科准教授	中村 多見
事務局長	山本 文雄
学生支援部次長 (教務事務担当)	佐々木 康夫
学生課長補佐	藤井 純子
入学支援課長	谷口 恵美
企画課長	大芝 康敬
企画課企画係主任	金田 一耕

5. 両短期大学に対する質問事項と回答

(1) 高松短期大学から香蘭女子短期大学への質問事項 (Q) とその回答 (A)

■書面調査 (高松短期大学から香蘭女子短期大学への質問事項)

Q : 平成 29 年度入学生から導入予定の 4 学期制について、カリキュラムをどのように組む予定かを教えてください。また、円滑な 4 学期制移行への方等のアドバイ스가あれば教えてください。

A : ライフプランニング総合学科、ファッション総合学科の 2 学科において 4 学期制を導入しますが、学科によりカリキュラムの組み方について違いがありますので、それぞれお答え致します。

ライフプランニング総合学科では、4 学期制導入により、偶数期に学外での活動が行えるよう週後半は授業科目を減らした時間割を計画しています。1～4 期には基礎科目 I～IV を週 2 回開講し、初年次教育の充実を目指します。また日本語力養成や IT スキルの向上を目的とする科目もクォーター制で実施します。並行して資格関連科目を始めとして開講科目を減らしたので、その調整に時間が取られました。また、メジャー制を導入することで、ユニット制に比べ履修可能な科目も減るので、本学科の現在の特徴である多様な科目が学べるという仕組みを、選択科目を一定数開講することで保持するのに腐心しました。

ファッション総合学科では、4 学期制を導入するにあたり従来のユニット制を廃止し、4 つのフィールド (デザイン・ファッション造形・生活スタイリング・ファッションビジネス) の中からファッションの職種別に、必要な科目をそれぞれのフィールドから自由に選択できるようなカリキュラムを作成しました。さらに専門科目は 1 期から 8 期までステップアップできる内容となっています。また、円滑に 4 学期制に移行できるように、初年次は講義及び演習科目の中から常勤教員の科目のみをクォーター科目として組み込んでいます。今後はクォーター科目を増やしていく予定です。

Q : 食物栄養学科「4 項目の学習成果」のなかには、学内での試験の成績等が含まれていないように思えますが、学内での試験の成績等は学習成果ととらえていないのでしょうか。

A : 食物栄養学科では成績による評価を「学習成果」としてとらえていません。栄養士養成施設での責務は、栄養士として基礎的情報を提供することが主目的であると認識しています。したがって、学生が学んだ基礎情報をどれだけ理解しているのかを評価するための試験を「学習成果」としてとらえるには若干の難があるものと考えています。「学習成果」として値する要因として、学生が学んだ基礎的情報をどれだけ応用できるのかを評価することが真の「学習成果」ではないかと考えています。したがって、栄養士養成施設からみた「学習成果」を客観的に評価するならば、基礎知識を応用・活用できる全国栄養士養成施設協会が実施している「栄養士実力試験」およびフードスペシャリスト協会が実施する資格認定試験での成績に関しては、本学科が考えている「学習成果」としてとらえられるものと考えています。

Q : 保育学科における「就職先における聞き取り」とはどのような体制で実施されているの

でしょうか。さらに「就職先における聞き取り」の結果を自己点検・評価報告書（以下報告書）報告書7ページで「次年度の授業や学生調査に活用している」とあります。どのように活用しているのですか。

A：2年次8月の保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ、9月の教育実習においては、遠隔地を除くほとんどの実習園を学科全教員が分担して巡回指導していますが、並行して分担当地区の当該年度就職園挨拶を行い、卒業生の状況と保育者養成に求められることを尋ねています。聞き取りを行っている就職先園は卒業生就職先のうち90%以上です（早期退職のため実習時期以前に園に伺っている園、一般企業、遠隔地（離島）を除いています）。巡回担当教員は訪問報告書を作成し、学科内就職委員会で集計します。その内容は学科会議で報告されます。

Q：保育学科において「学園祭・各種委員会活動における学生の動きについてアンケート」調査が実施されていますが、これは自己評価のことでしょうか。また、「教員による評価」はどのように行われているのでしょうか。

A：アンケート調査は、担当した委員会委員に振返りを記入してもらっています。自己評価です。現在は自由記述による回答です。提出されたものは整理し学科会議にて学科教員間で共有しています。香蘭祭では委員以外の学生全員にも記入してもらっています。教員による評価は、学科会議の場で、委員会や学園祭についての振返りの時間を設け、よかった学生の姿や課題をそれぞれ挙げ、今後の授業や学生指導の資料としています。保育学科賞の推薦対象にも挙げています。

Q：報告書記載の保育学科「2年間の出席率調査」は日数でしょうか、授業ごとでしょうか。また、卒業後研修参加率はどのように解釈すればよろしいでしょうか。

A：「2年間の出席率調査」ですが授業ごとです。また学期終了時に各個人の平均出席率を算出しています。卒業後研修参加率は「たい力」のデータではなく、研修の参加の割合を参考資料として示したものです。わかりにくいようですので今後削除したいと思います。

Q：中途退学者の予防策や休学期間中の支援の具体的な方策にはどのようなものがありますか。

A：中途退学予防及び休学中支援において、平成28年度は重点項目として「休学中の学生にはクラス担任等から定期的に連絡を取る」とし、平成28年6月代表教授会で学長より依頼がなされました。休学期間中に電話やメール以外にもハガキを使った連絡を行い、心理的つながりを保つことで休学期間終了後の復学や休学延長などの手続きがスムーズにいった事例もあり、全学的に取り組むこととなりました。平成27年度は「分かりやすい授業展開を図ること」「理解の進んでいない学生への声掛け」「学科助手や事務職員の活用（連携）」「退学相談時に担任だけではなく学年主任・学科長も面談を行う」「カウンセリング室から守秘義務に抵触しない形で支援のヒントをお願いする」「従来通り個人面談等を利用し希望・見通しを持たせること」（平成27年9月代表教授会）を全学的な対策としました。各学科会議でも学生個別状況の把握を行い、学生の個別面談を行っています。

Q：保育学科学位授与の方針（ディプロマポリシー）は、教育目標（3つの心、4つの感性）とどのように関連づけて作成されたものでしょうか。

A：保育学科学位授与の方針は定期的に点検を行っています。現在の保育学科学位授与の方針は、実地的なゴールとして表現しています。教育目標は、本学科が育てたい人材像であり、学位授与の方針との関連がわかりにくくなっています。これから関連を再検討したいと考えています。

Q：「保育者としてふさわしい人間性」をどのように成績評価で重視していますか。

A：学位授与の方針に「保育者としてふさわしい人間性」を挙げておりますが、各科目の中で、その点をどう評価するか、は課題です。学位授与の方針や授業の到達目標を観点別に設定することも取り組んでいきたいと思っております。実際には、気になる学生の出席状況、授業中の様子、学校学科行事での様子、実習の様子等を学科会議、進級指導会議、学年会（学年別におこなうクラスアドバイザー・サブクラスアドバイザーによる会議、1か月に2～4回実施）において学科教員間で共有しています。

Q：ライフプランニング総合学科の正規留学生の制度について、どのような制度かを教えてください。

A：複数名の教員で面接を行い、日本語の運用能力と学科内容についての理解、成績証明書や保証人の確認、及び入学後の学費の支弁能力等を総合的に判断し、入学を許可します。留学生のための日本語科目を開講し、その取得単位は、卒業要件に読み替えができるようにしています。後は日本人学生と同じように履修させます。これは、全学共通で実施しています。

Q：保育学科「日常の学園生活の場も学びの場」というのは具体的に言うと何を指すのでしょうか。

A：自分から挨拶をすること、時間を守ること、掲示を確認すること、学ぶ環境を整えること等、社会人として必要なマナーや心がけは当然身に付けて欲しいことです。このようなことは授業だけでは身につけません。本学の学生は教員研究室をよく訪問します。廊下でも教職員と会話を交わします。本学科ではそのような授業以外の時間も学びの場と考えています。また授業以外の教育の例として、保育学科では毎週火曜日昼休みに清掃の時間を設け、整美委員会を中心に活動しています。教員も共に行きます。「日常の学園生活の場も学びの場」をカリキュラムポリシーに取り入れることは学内でも議論はありました。「隠れたカリキュラム」という言葉もありますし、保育者養成の学科としてあえて「日常の学園生活の場も学びの場である」ということをカリキュラムポリシーに記載しています。

Q：1年次終了時の進級指導会議は学科ごとに開催されているのでしょうか。

進級指導会議では、単位履修状況だけではなく、GPAによる成績状況を把握されていますが、どのように結果を活用されていますか。

A：例年 3 月下旬、年度最終出勤日に全学的に設定されています。午前中に各学科進級指導会議、午後の代表教授会にて午前の進級指導会議の結果（進級指導対象者数、進級指導内容）が報告されます。

進級指導会議では成績一覧（備付資料あり）を作成し、学科進級指導会議にて確認しています。進級指導会議では、K-GPA1.5 以下の学生は指導対象となります。

また K-GPA は各学科で褒賞制度の基準として使われています。保育学科では 2 年生初めのオリエンテーション期間において、1 番目に成績上位者（総合点が限りなく満点に近づくよう努力した学生）、2 番目に成績アップ者（著しく向上した（＝30 点）学生、1 年～2 年のアップ、前期から後期へのアップ）にその学生の努力をたたえ、学年集会（代表者のみ）、クラスミーティング（該当者全員）にて保育学科賞を授与しています（副賞はボールペン）。

Q：保育学科教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）は、教育目標（3つの心、4つの感性）や学位授与の方針（ディプロマポリシー）とどのように関連づけて作成されたのでしょうか。

A：教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）は学位授与の方針（ディプロマポリシー）を踏まえ、どのような場で育つのかを規定しています。平成 28 年度も点検を行い一部修正を行っています。教育目標は、学科の育てたい人材像であり、学位授与の方針と同じく教育課程編成・実施の方針との関連がわかりにくくなっています。検討課題です。

Q：保育学科教育課程編成・実施の方針の 2 つめにある「サークル活動」とはどのようなことを指しているのでしょうか。これは 3 つめの「教員やクラスメートとの交流」に該当するのでしょうか。

A：本学では火曜日 4 限目は時間割においてクラブ活動の時間としており、この時間には授業は入らないようにしております。クラブ活動（サークル活動）参加は任意です。本学科では学生にできるだけクラブに入るよう声をかけています。クラブ活動（サークル活動）の中で、地域での活動や学科を超えた学生同士の交流も行われることもあり、クラブ活動（サークル活動）も学校・学科行事と並ぶものとしてカリキュラムポリシーの中に記載しています。「教員やクラスメートとの交流」とは、学校・学科行事での交流や、「日常での学園生活での交流」を指します。

Q：ライフプランニング総合学科におけるコース制とユニット制とはどのような制度でしょうか。

A：ユニットは 4～6 科目の関連科目群で、この開講科目すべての単位を取得することで、ユニットが完成したことになります。3 ユニットの完成が卒業の要件です。コース制は、学生がより専門性を深めることができるような、あるいは志望する進路に必要なと思われるユニットを集めたものです。各コースは 9 前後のユニットからなり、そのうちの 2 ユニットの指定（履修の義務がある）となり、あと 1 ユニットの取得（完成）すればコース修了となります。ただし、コース制は学科の履修指導のために設定されたもので、その修了の 3 ユニットの

は卒業の要件ではありません。要件の3ユニットはコースの3ユニットでも構いませんが、他コースで取得したものを合わせて3ユニットでも要件は満たしたことになります。

Q：ライフプランニング総合学科では、フィールド&ユニット制カリキュラムを導入されていますが、卒業時ではなくコース終了するごとにコース修了証を発行しているのでしょうか。また、複数のフィールド&ユニット（専攻性）から自由に選択できることで、かなりの授業の選択肢があるのですが、フィールド数、ユニット数、受講になんらかの条件があるのでしょうか。

A：修了証は卒業時に授与されます。ユニットは関連科目群で、フィールドは、ユニットが複数集まった学問の区分です。3ユニットの完成（受講したユニットの全科目の単位を取得すること）だけが、必修の単位と教養の8単位以外の要件になります。学生はユニットを可能な限り履修できますが、フィールドは要件にはなっていません。最大で8～9ユニットは取得できます。平均では5ユニットくらいです。

Q：K-GPAを独自に採用した理由・背景は何でしょうか。また、報告書45ページにある「150以下の学生」とはどのような学生を指すのでしょうか。かつ、「減らす努力」とは具体的にどのようなことをしていますか。さらに33ページ（保育学科）に「学科別に学年内で順位化を行う」とありますが、これはすべての学生に公表されますか。上位者（香蘭賞受賞者のみ）だけでしょうか。

A：本学においてはこれまで独自の成績得点（修得した単位の評価（優良可不可）を300点満点の点数に置き換えたもの）を長年利用し、学生の指導や保護者面談の資料等に活用してきました。これを平成26年にK-GPAとして位置付けました。150点以下の学生は、成績評価において不合格科目が多かったり、優や良が少なかったりするような学生です。他の項目（提出物や授業態度等）において名前の挙がる学生と重なることも多いです。150点以下の学生を減らす努力として、進級指導時に学科長から指導する、次の学期の個人面談時にクラスアドバイザーより指導する、ことを行っています。また、学科賞（保育学科賞：学生間の比較のみならず個人内の伸びも表彰の対象とする）の基準の1つに、成績アップの項目（前回に比べ30点アップ）を設け、個人の中での努力を促しています。成績順位は、クラス担任による個人面談時に全員に口頭で伝えています。

Q：カリキュラムツリーとは何ですか。また、カリキュラムツリーは公表されていますか。特に、学生への履修指導等で説明されるものなのでしょうか。

A：科目間のつながりを図式化するためにカリキュラムツリー（履修系統図）を平成27年度に作成しました。カリキュラムツリーは公表していません。保育学科では保育士養成協議会九州ブロックセミナーにて情報交換を行っています。履修指導での使用を前提に作成しましたが、活用できていないのが現状です。保育学科履修指導では単位修得シートを利用し、学生の自身の単位修得状況の理解を促しています。

Q：ライフプランニング総合学科授業評価アンケートでの改善の余地のある科目や箇所については、どのような部署の方が把握・分析しているのでしょうか。

A：ライフプランニング総合学科では、すべてのユニットとそれ以外の教養科目や必修科目に責任者を決めています。ユニットの開講科目を担当しているものもいれば、担当していないものでも責任者になります。仕事は、担当者変更時の後任者の手配、学外授業実施の報告、書店を通さない教科書の注文、ユニットのアンケートの実施、ユニット担当教員を集めた意見交換会の実施などです。また、資格・検定がそのユニットにかかわる場合、その手続きもします。

アンケートには個別の科目の評価が点数化されますので、問題がある科目については、責任者が担当者に連絡したり、話し合ったりしています。年度末に全ユニットの報告会を実施し、それぞれの運営状況を学科教員で共有します。

Q：「受け入れの方針に合致していない受験生でも…」はどの学科に該当することなのでしょうか。また、「きちんと教育を行い…」の具体的内容・方法・効果等はどこかに示されていますか。

A：受け入れの方針に合致していない学生はいませんが、万が一合致していないと思われる受験生でも許可した以上はきちんと教育を行わなければなりません。卒業までに、未修得単位が多かったり、欠席が多く出席時数不足の単位が多かったりして卒業までに支援を要する学生や卒業延期となる学生はどの学科でもみられます。「きちんと教育を行い…」の具体的内容・方法・効果等は記載していませんが、卒業要件を満たすべく、クラスアドバイザー等が単位取得・卒業という目標を意識させ達成できるよう援助しています。

Q：「保育学科アドミッションポリシーは、学習成果に対応している」ことを入学前教育課題として、作文でどのように評価し、学生指導の参考に使っているのでしょうか。

A：保育学科アドミッションポリシーは、保育学科の学習成果「実践力」「協働力」「たい力」に対応しています。入学前課題の作文は入学後受け持ち予定のクラスアドバイザーが目を通し（3月末頃）、入学する学生がアドミッションポリシーを満たしているか、どのような学生であるかを把握する参考資料としています。

Q：平成 29 年度の 4 学期制に移行するために困難だったことはどのようなことでしょうか。また、4 学期制にするメリットとデメリットはどのようなことでしょうか。（ライフプランニング総合学科）

A：メジャー制へ移行するために、科目の削減を実施しました。元々、短大としては多すぎる科目を開講していましたので、それを 2～3 年かけて見直し、50 科目ほどが閉講となります（来年度はまだ 2 年生がいるので開くものもあります）。いくつかのユニットの全科目を閉講にすることで、相当数削減できました。削減対象となったユニットは、受講者が少ないもの、非常勤の割合が大きいもの、メジャー制の授業内容に組み込めないもの等です。これは 4 学期制の移行に関係なく時間の掛かる作業です。

4学期制のメリットは学外での活動の時間を設け、授業だけでない教育の実質化が達成できるのではないかという期待です。1期が2カ月程度なので週2回の授業で欠席が続くようだと、本学の履修規程による授業回数4分の1以上欠席のための出席時数不足学生が出て来るのではないかという危惧はあります。

まだ実施していませんのでメリット・デメリットを挙げるのは、完成年度になってからだと思います。

Q：イベント参加経験について、参加経験は何かの授業と関連し、評価とも関わっているのでしょうか。また、それらのイベントは大学から呼びかけるのでしょうか、それとも、学生が自ら見つけてくるのでしょうか。（ファッション総合学科）

A：イベント参加の中には、①ファッションショーの企画運営やモデルとしての参加 ②授業および授業以外で制作した作品の出品と販売 ③ボランティア活動などが挙げられます。授業で学んだ知識や技術を活かしたイベントが多いですが、授業の評価には関わっていません。しかしイベントの参加経験は、学科独自の報奨制度における「学科賞」の評価対象としています。また、イベント参加は学科から呼びかけています。

Q：食物栄養学科における学習成果の査定として、「栄養士実力試験」と「FS認定試験」は全学生に受験を義務づけていると理解してよろしいでしょうか。

A：ダブルライセンスとして、栄養士免許取得とフードスペシャリスト協会認定の資格取得を指導しています。そのためには、栄養士養成施設協会による「栄養士実力試験」とフードスペシャリスト協会認定の「FS認定試験」ともに現時点での栄養士としての実力が評価できることから、全学生に対して受験するように指導しています。

Q：保育学科の学習成果を報告書44～48ページで確認しましたが、カリキュラムポリシーやディプロマポリシーとどのように関連しているのでしょうか。

A：ディプロマポリシーで挙げている、「実践家として必要な保育者の力」を、具体的に学習成果として3つ定義しています。しかし、教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの関係がわかりにくくなっています。教育目標を起点に、もう一度整理したいと考えています。

Q：ライフプランニング総合学科の卒業要件に3ユニット以上の制約をいれてから、何か学生には変化はありましたか。

A：特に変化はありません。それ以前から5ユニット位取得していたので、学生にその分負担になっていることはありません。ただ、稀にそれを充足できず卒業延期となる学生もいます。

Q：ライフプランニング総合学科において平成29年度以降に導入されるメジャー制は、どのような制度でしょうか。

A：メジャーは科目内容、進路を勘案し7つ決定しました。1期にメジャーガイドを実施し、2期で系を選び、3期からメジャーが始まります。どのメジャーも10科目程度指定科目を設定しています。同時に関連のある科目を選択科目として組み込んでいます。メジャーは6期までで、7、8期は卒業研究を必修で受講させます。また偶数期にはチャレンジとして学外活動や検定の受験などをする仕組みを整備しています。

Q：「Web 調査」と「二カ年にわたるデータ」とはどのようなものでしょうか。

A：短期大学コンソーシアム九州で開発した仕組みの中にアンケート調査を Web 上で行える機能があります。Web 調査とはこの機能を用いて在学生や卒業生に対してアンケート調査を実施したという意味です。

短期大学コンソーシアム九州で行ってきた卒業生調査（紙ベース、過去2回実施）の反省の下、即時性を考え、卒業生調査を Web 上で行える仕組みを検討してきました。しかしながら、卒業してから急に Web で行っても答えてくれないということもあり、在学中から Web 調査を入学後半年（10～11月頃）と卒業前（12～1月頃）を目処に7短大共通の質問項目を活用して、在学生調査を実施してきました。

この仕組みにおいては、学生が同じアカウントを用いてログインするので、1年生と2年生で答えた内容と卒業してからの内容を結びつけることが容易にできます。ここでの、「二カ年に渡るデータ」とはこの在学中のデータを指します。

Q：年度末に実施している企業訪問は、どのように行われているのでしょうか。

A：企業訪問リスト作成から訪問までの流れをご説明いたします。

①1月末を目処に学生課にて今年度求人を受けた企業、内定を受けた企業のうち、『福岡県内で、過去3年間の内定者が居る企業』、もしくは『過去2年間の求人を受けた企業』を選出します。

②学科の就職推進委員が、学科内にこのリストを元に希望調査を取り、その他に行きたい企業があればリストに追加します。その後、リストを学生課へ返却します。

③学科から再度出てきたリストを元に、訪問企業を集約し、他学科との重複を検討した上で、訪問企業のみを纏めたリストを就職推進委員へ提出し、再度学科内でこの情報を共有します。

④出張手続きを経て、各教員にて学生課に連絡の上、出張に必要な資料等を用意してもらい、出張へ行きます。

⑤出張後上記の内容について一社につきA4一枚にまとめ、学科内および学生課にて情報を共有しています。

Q：1年次終了時の進級指導会議は、具体的にどのように行われるのでしょうか。

A：例年3月下旬、年度最終出勤日に全学的に設定されています。午前中に各学科進級指導会議、午後の代表教授会にて午前の進級指導会議の結果（進級指導対象者数、進級指導内容）が報告されます。卒業認定会議と同様に進級指導会議も、全学共通の様式を用いています（教務委員会作成）。学科の進級指導会議では、学科の「総括表」にて、この1年間の休学、退学、

復学、転学科、等の状況を数で確認します。1年次0単位の学生は1年前期からは履修するというようになっています。進級者のうち、指導が必要な学生と、その指導内容について検討します。資料として、成績一覧表、出席率状況などを用いています。

午後の代表教授会で各学科の状況を確認します。

Q：進級指導会議で用いられる学習成果の「設けられた基準」とは何ですか。不十分と判断された学生は進級できないのでしょうか。複数教員による指導はどのように行い、効果はいかほどでしょうか。

A：平成27年度保育学科を例にとると、進級指導の対象として基準A-1：未修得科目1科目の者、基準A-2：未修得科目2科目以上7単位未満のもの、基準B：未修得7単位であるが保護者同席の指導を要する者、基準C：未修得科目8単位以上の者、基準D-1：未修得科目はないが出席率に問題のある（90%未満）者、基準D-2：その他個別指導が必要な者、基準E：K-GPA1.5未満の者、という基準を設けています。複数の基準に該当する学生もいます。1年次0単位の場合は再度一年次の開設科目から履修しますが、1年次0単位以外の者は「仮進級」となります。指導内容として、基準別に集合し学科長の励まし（学年主任、クラスアドバイザー同席）と決意書提出に教務委員による履修計画立案、保護者への通知、基準によっては、本人保護者に対する学科長面談（クラスアドバイザー同席）、を行っていません。学生に対し、このままではいけない、もっと成長してほしいという願いを持って指導を行います。

Q：ファッション総合学科では、貢献度を評価対象としているとのことですが、具体的にどのような方法をとっているか教えてください。

A：イベント参加やクラスへの貢献度（クラス委員）を評価対象としています。具体的にはイベント参加数、学業成績、授業の出席率、学科行事および学校行事への参加率等を考慮し、クラスごとに候補者を選出し、学科会議にて学科賞の受賞者を決定しています。

Q：ファッション総合学科での独自の褒章制度について教えてください。

A：褒章制度は、定期試験の成績以外にも学生の努力ややる気などを学習成果として評価しています。学科賞と精励賞の2つを設けています。

<学科賞>

- 1 学科・クラスに大いに貢献した者
- 2 成績が著しく上昇した者（1年前期から1年後期）
（1年後期から2年前期）
- 3 自由課題作品制作数が多い者
- 4 コンペティション応募回数が多い者
- 5 入賞した作品の実物製作を完成させた者（テクニカル専攻科も対象）

<精励賞>年間受講科目、学校・学科行事の出席率が100%（1回遅刻のみ認める）

- 1 3年間皆勤（テクニカル専攻科対象）

2 2年間皆勤

3 1年間皆勤

Q：「振り返りシート」にある「教員の自己評価」とはどのようなものでしょうか。顕彰制度にかかる基準（%）もしくは反対に、問題となる基準（%）があるのでしょうか。

A：授業改善アンケート結果のフィードバック後に、教員はA4・1枚の振り返りシートに記入し提出しています（備付資料あり）。ここでの「教員の自己評価」とは、授業改善アンケートの結果を受けて、教員が当該授業の授業目標への到達度を評価するものです。なお、この到達度の自己評価は授業顕彰とは直接関係しません。授業顕彰および改善制度に関しては、別途授業改善アンケートの数値結果に基づく基準を設けています。

Q：「授業の事前事後課題にWEBサイトで情報収集を求める科目」とありますが、具体的にどのような科目でどのような課題でしょうか。いわゆるコピーペースト防止や著作権保護についての指導も合わせて実施しているのですか。

A：家庭支援論という授業で一部試みています。事前学習として授業で今後取り上げる予定の項目（例えば、「病児保育の利用の仕方」「福岡市における母子健康手帳の申請方法」など）を毎回課題として提示し、用紙に手書きで記入し次週提出してもらいます。行政のWEBサイトにおける市民向けの案内からの情報収集が中心です。著作権保護の指導は充分とは言えず、就職後においても引用時の注意は知っておく必要があるため、平成29年度から指導を行います。

Q：ライフプランニング総合学科でのクラス制について教えてください。入学してから卒業するまでにどのようなクラスが存在するか（各授業のクラス以外で）を教えてください。特別科目（平成28年度より総合演習）は、学籍番号順ということですが、卒業研究のクラスはどのように決めるのでしょうか。特別科目・卒業研究ともクラスアドバイザーとサブクラスアドバイザーがいるのでしょうか。教員のクラス担当の割り当て方法についても教えてください。また、各期のタイミングでコースを変更できるとのことですが、中途半端な履修状況にならないのでしょうか。

A：クラスは入学してから卒業まで変わりません。必修の総合演習Ⅰ～Ⅳは各期あるので、学生はこのクラスで受講します。学校行事である体育大会や学園祭も、このクラスで参加します。

卒業研究は12月に説明会を実施します。学科の専任の全教員が順番に、1年生全員にゼミ内容を説明します。学生は希望するゼミに順位をつけて申し込み、ゼミが決定します。希望者の多いゼミの教員は10～13名程度の学生を選びます。それに漏れた学生は第2志望に廻ります。第7志望まで決まらない場合もあります。また、受講者ゼロのゼミも過去には何回かありました。

クラスは現在はほとんど教員が担当していますが、学年主任はクラスを担当しません。基本的には入学時の担任が2年に持ち上がります。

コースを変更する学生はほとんどいません。たまに、ユニット3の完成が難しい（時間割上）ケースで変更があります。その場合はコースの修了より卒業を優先させます。

Q：「教員相互の授業参観」の現状はどのようなものですか。

A：平成28年度は前期後期それぞれ2週間の「授業公開期間」を設け、全ての授業を教職員が参観できるようにしています。それ以外にも授業公開が可能な授業においては「授業公開カレンダー」に掲載しFSDS委員会より提示しています。参観者は1週間以内にコメントを授業担当者に提出します。保育学科は全教員いずれかの授業を参観し、コメントを書いています。参観も多くの教員が受けています。なかなか教員の空き時間と公開されている授業が合わないという難しさがあります。

保育学科独自の取り組みとして、保育実習指導Ⅱのうち4コマの実習振返りを教員チーム（2～4名）によって授業を行っていることが挙げられます。各専門の立場から実習の振り返りと専門科目とつながりの解説を行います。教員同士の授業打ち合わせや授業実践の中で保育者養成の全体像に立ち返り、教員としての指導のあり方を考える時間になっています。

教育課程全体の理解は大変重要であり、平成29年度に予定している教職課程審査のためのカリキュラム検討の際に授業内容の確認を行う予定です。

Q：「学科職員室・学科支援室」とは何ですか。誰が在室しているのですか。

A：学習成果の獲得に向けた学生支援や授業の補助のため、各学科に職員室を設置し（ライフプランニング総合学科は学生支援室）、助手等（主任助手、助手、副手）を配置しています。助手等は、学科事務、学園祭やオープンキャンパス等学校・学科行事業務の補佐やクラスサブアドバイザーとしてアドバイザーと協力しクラス学生の状況把握を行っています。

Q：「学科教員集団のアドバイザーを中心としたネットワーク」とはどのような体制で、個々にどのような役割があるのですか。

A：報告書62ページにもありますが、本学においてはクラス制をとっており、クラスアドバイザー（クラス担任）が大きな役割をもっています。全ての学科で、学年の学生をクラスに分け、それぞれにクラスアドバイザーがつきます。クラスアドバイザーは講師以上の教員が受け持ちます。サブアドバイザーは、現在においては、ライフプランニング総合学科では講師以上の教員が受け持ち、ライフプランニング総合学科以外は学科職員室所属の助手が配置されています。学年におけるまとめ役として学年主任をおいています。毎年2月の代表教授会にて新年度の体制が発表され、学生には新年度初日に発表されます。

クラスアドバイザーは学生の出席状況の把握、単位履修状況の把握、生活面の指導、就職指導等を行います。サブアドバイザーはクラスアドバイザーの補佐を行います。

クラスアドバイザーだけで見えてこないものもありますし、アドバイザーと学生の関係が煮詰まってしまう場合もあります。メインはクラスアドバイザーですが、クラスを越えた関わりも重要と考えています。

Q：学生によるオフィスアワー利用の状況はどのようになっていますか。

A：オフィスアワー利用状況の調査は行っていません。これまでも本学の学生は教員の研究室を訪れることは多かったのですが、オフィスアワーの設定により確実に教員とコンタクトをとれるようになったという声も一部にあります。しかし、まだ全学的な調査は行っていません。

Q：「学生の個人情報カード」の内容はどのようなもので、作成者は誰ですか。また、閲覧はどのようにして行っているのでしょうか。

A：教務課保存の学籍簿、学生課管理の学生カードと別に、学科の作成した個人情報カードがあります。学科により取り扱いは異なりますが、概ね学科職員室・学生支援室のカギのかかるロッカーに保管しています。

Q：履修指導時の「指導補助者」とは誰ですか。

A：履修指導はオリエンテーション期間に学科単位で行います。進行は学科教務委員です。教務委員以外の学科教員（クラスアドバイザー）も加わり個別の質問に対応しています。指導補助者は教務委員以外の学科教職員（助手含む）を指しています。

Q：ファッション総合学科、ライフプランニング総合学科では入学式の前日に履修指導をおこなっているとのことですが、なぜ前日に実施するかの理由を教えてください。

A：＜ファッション総合学科＞

以下の点から前日の履修指導が必要でした。平成29年度からは実施致しません。

- ①履修登録をするにあたり、新生に対してユニット制についての説明が必要である。
- ②ユニット制の場合、コース制と異なり学生自身が個人時間割を作成するために履修指導が必要となる。
- ③被服製作や実習系の授業またはパソコンを使用する授業は、実習室やパソコン台数やソフトの関係で、ユニット選択数の調整が必要となるため、ユニット調整会議を行いながらの履修指導である。

＜ライフプランニング総合学科＞

オリエンテーション期間中に資格・検定の説明会2日間実施し、それらがどのユニットを履修すれば取得できるのかを十分理解させた上で、履修登録を行うので、他学科より1日多くなっていました。平成29年度からは実施致しません。

Q：「入学前教育課題」に「保育学科では音楽課題とその他専門分野に関する課題」とあります。具体的にどのような課題で、作文もこの中に含まれるのでしょうか。その課題をどのように評価し、入学後に活用するのでしょうか。

A：「入学前教育課題」には「音楽課題（基本的な記号の名称や意味を調べる・読譜の練習）」「国語課題」「作文課題（あなたが本学の保育学科に入学した後、どのような学生生活を送りたいと思っているか、将来どのような職業人になろうと思っているかを踏まえ、現在の思い

を書く)の3つがあります。音楽課題については、前期授業の習熟度別グループ編成の参考としています。作文は、入学前にクラスアドバイザーに渡し、学生を理解する材料としています。また提出状況(遅れて提出している、一部完成しないまま提出)は入学後の提出物の状況とも関連があると考えており、年度初めの学科会議で共有しています。

Q:「保育学科賞」の表彰基準と受賞者数は何人ですか。その効果はどのようなものでしょうか。

A:保育学科賞とは、学生の優れた取り組み、努力した事柄を讃えるものです。学生の真剣な取り組み・がんばり・努力等が把握できた場合はたとえ小さい事であっても讃え、さらなる取り組みに向けての励みとするものです。15年以上にわたり年度末に表彰を行っています。特徴として(1)主体性に基づく目標(自己設定目標)(2)自己との比較(個人の向上・育ちの尊重)(3)一人ひとりの受賞内容に応じた表彰文(4)教育目標の具体的な提示(学科が何を期待しどのような願いを持っているのかということを示している)(5)教育目標の再確認(選考会議にて教員の視点を問う)が挙げられます。平成26年度・27年度の対象項目は以下の通りです。

1 学業成績において特に努力したもの

①成績優秀者 2年間トータル、1年間トータル ②成績向上者 1年次に比べ2年次にK-GPA0.3アップしたもの、前期に比べ後期にK-GPA0.3アップしたもの ③教科において特に優れた成績の学生(例えば実習での評価が全て5である) ④自己の向上へ向け特に努力したもの、必要単位を多く超えて修得したもの

2 諸活動において特に努力したもの

①委員会活動において特に優れた貢献をした学生 ②学友会・クラブ活動等に積極的に取り組んだ学生 ③環境美化において特に優れた取り組み(貢献)をしたもの

3 この賞の趣旨にそうと思われる業績・努力のあるもの

ただし年間出席率90%未満の学生は受賞対象から外しています。

平成26年度入学生は62名、平成27年度入学生は1年次終了時点で27名でした。代表となる学生は卒業パーティーにおいても表彰しています。賞を意識し単位認定試験に意欲的に臨む学生もみられます。

Q:ライフプランニング総合学科・学生チューター室について、ここでどのようなことするのかを教えてください。レポートや調べ物をするとの記載がありますが、一般のパソコン教室との違いを教えてください。

A:チューターは成績上位者が選抜される、学生の顕彰制度でもありますので、そうでない学生はこの部屋の使用ができません。全学生に開放されているパソコン室とはその意味で異なります。

Q:保育学科課題に挙げられている「どんな時期にどんな内容で悩みを持つのか」の検討はどのように進んでいるのでしょうか。

A：アンケート調査を考えていますがまだ実施できていません。教員の感覚では1年後期の夏休み明けの時期や11月以降の実習の準備が具体化してきた時期が支援の必要な時期ではないかということがあり、教員それぞれが声掛けなどを行っています。実習前の書類の準備なども乗り越え、充実した実習を過ごすことで精神的な成長も見られるため、この調査の準備を進めています。

Q：クラブ活動は毎週火曜日4限目に行われていますが、全学生が入部しているのですか。そうでない場合、参加率はどのくらいでしょうか。また時間割の中に組み込まれているのであれば単位は認定されるのでしょうか。さらに学習成果との関連はどのようなものでしょうか。

A：本学では、クラブ（サークル）活動への参加は任意となっています。平成28年度、クラブに加入している学生数は、104名で、全学生の約13%です。この火曜日4限目は、クラブ活動を積極的に行うための時間として授業を入れていませんが、学科における行事のほか就職関連行事や奨学金説明会なども実施されており、時間の確保が難しくなっています。現在は、クラブへの参加による単位認定は、行っていません。学生には、クラブ活動を通じて、自己表現や個性伸長、協調性やコミュニケーション力、その他忍耐力など社会人基礎能力にも通じる力量が培われるものと考えています。ダンス部や軽音楽部は学園祭にて発表を行っています。

学科の学習成果との関連はこれからの検討課題です。

Q：クラブ活動等に関する課題として「問題解決には、担当する教職員の指導力が課題」とありますが、どういうことでしょうか。

A：指導もさることながら、教職員の多忙により、物理的な時間確保が課題であり、中高の部活動問題点と重なる面があります。

Q：「ボランティア活動等による評価の仕組みや方法」の検討はどうなっているのでしょうか。

A：現在、授業の一環や学友会、クラブなどによるボランティア活動への参加はありますが、まだまだ件数や人数も少ないのが現状です。具体的には、香蘭祭や地域清掃行事などが主になります。平成28年度からは、評価方法の一つとして、卒業式に表彰する学生部賞の選考要件に「地域、社会に対して貢献する活動を行い、一定の成果が認められる者」という項目も対象に加えたばかりで、まだまだ全学としての評価の仕組みは整っておらず検討中です。制度として、これから学生の地域貢献を念頭に入れたシステムを作っていくところです。

Q：報告書85ページの図において、「キャリア相談室」と「就職推進委員会」および「学生課」との関係はどのようなものなのでしょうか。

A：「キャリア相談室」は就職事務担当窓口である学生課横に設置されており、就職指導室とも呼ばれています。現在1名室長が任命されておりますが、常駐ではないため、学生課員や外部キャリアカウンセラー2名により、学生生活相談から就職、進路相談の場所として活用

されています。また、室内には、以前より本学へ求人をお願いした企業・園の情報や先輩の受験情報を綴ったファイルと PC を設置しており、学生が自由に利用できる空間でもあります。一方で、学内における就職指導支援に関する行事や計画を立て運営するのが就職推進委員会ですが、キャリア相談室長が、就職推進委員会のメンバーではないことから図においては、独立した表記としています。

Q：「就職対策・支援講座等」は希望者のみの参加なのはなぜですか。保育学科の就職活動支援の時期・内容・工夫・課題はどのようなものでしょうか。

A：保育学科 1 年生は「就職対策・支援講座等」が開催される 2 月中旬が、保育実習 I と重なる為、実習に行かない一般企業希望の学生の任意参加となっています。保育学科の就職採用試験は保育実習 II（8 月）教育実習（9 月）以降に本格化します。実習前の 2 年前期「特別科目 III」において就職対策講座として履歴書指導、面接指導、マナー指導等を組み込んでいます。例年 6 月第 3 日曜日に福岡市保育協会主催の就職説明会が市内で実施されますが、こちらを全員参加とし、意欲を高め、自身の現状を振り返る機会としています。学内でも幼稚園連盟の就職説明会が「特別科目 III」の 1 コマにて実施されています。就職支援の課題は大きなものは見当たりません。就職後の早期退職予防対策が重要と考えています。現在学科での対応としては、教員により当該年度の就職園挨拶を実習巡回指導と並行して行い、その聴き取りにより評価を行い、課題の把握と指導、改善の手立ての一つとしています。また、卒業生に対し、就職 1 年目の夏に学内で「新任保育者研修会」を実施しています。

Q：保育学科の就職先は私立園・公立園それぞれどのくらいになるのでしょうか。県外生は地元へ戻るのですか。県内・県外就職はどのくらいずつでしょうか。また公務員試験受験対策は行っていますか。

A：公立園での就職は年 1～3 名程度（保育士がほとんど）です。就職先は平成 29 年度学園案内 39 ページに掲載しています。試験を突破し正規採用となる学生もいますが、臨時職採用である学生もいます。公務員試験受験対策は行っておりません。

出身県別（福岡県以外）に U ターン率を調査した（H25.3 卒-H27.3 卒）ところ、長崎以外の県で U ターン率 50-60%、長崎県で 33%でした。佐賀県は 75%と高い率です。

Q：「5 つの選考」で重視する内容が微妙に異なっていますが、アドミッションポリシーに依拠しているかを判定するのに支障はありませんか。

A：支障はそれなりにあります。以前、文科省は学力偏重に陥らない多様な入試の実施を掲げていましたので、その動向に合わせ自己アピール選考、A0 入試を導入するなど多様性を重視してきました。その当時は、現在のようなアドミッションポリシーという概念はまだ薄い時期でそこを意識した入試内容・判定方法ではありませんでしたので、今後、アドミッションポリシーを意識した試験内容・判定方法を検討しなければなりません。

Q：課題「高大接続改革実行プランに沿った本学での個別選抜改革」としての方向性・計画

はどのようなものでしょうか。

A：平成 29 年度初頭に「大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告通知」および「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の実施方針の策定・公表」がなされる予定なので、その内容を十分把握した上、個別選抜改革に着手し、平成 33 年度入試から新しい入試要項を実施予定です。

Q：中途退学者については 10 ページで確認しましたが、休学者も含め、その理由と対策、特に「休学中の学生の支援」とはなぜ、どのようなことをするのででしょうか。

A：退学・休学の理由は多岐にわたり、経済的理由、進路変更などが多いようです。平成 28 年度は重点項目として「休学中の学生にはクラス担任等から定期的に連絡を取る」こととしています。その理由は先にも説明しましたが、検討の中で、休学期間中に電話やメール以外にもハガキを使った連絡を行い、心理的つながりを保つことで休学期間終了後の復学や休学延長などの手続きがスムーズにいった事例も紹介されており、休学学生への支援について全学的に取り組むこととなっております。

Q：教養ユニットの表の履修人数に関して、外国語の科目で履修人数がうまく分散していませんが、どのような履修指導をされたのでしょうか、教えてください。

A：外国語は 1 年後期で中国語と韓国語を開講し、2 年前期でフランス語と英語を開講していますが、1 年次の外国語は 2 年次でも履修できるようにしています。したがって 1 年次で履修人数が多い場合は、2 年次での履修を勧めることがあります。その場合履修の状況を 1 年次のクラスアドバイザーは 2 年次のクラスアドバイザーに引き継ぐようにしています。また履修者数が少ない場合は、授業内容を具体的に説明して卒業後の進路へのメリットを考えてもらい、履修を勧めています。あくまでも学生からの不満がでないようにしています。

Q：「ユニットの履修に関しては学生の自由度を可能な限り保っている」とありますが、ユニット間で履修人数のかたよりのある場合も考えられます。その場合どのように対応しているか教えてください。ユニット選択者や履修者がいないため、開講されない授業が多いのでしょうか。

A：ユニットの履修は 1 名しか受講者がいなくても開講しています。現在のところ開講のための最低人数は設定していません。複数開講されているユニット（ビジネス実務・トータルビューティー・医療事務）で人数の偏りが授業に支障が出そうな時、調整をしますが、選択したユニットの受講は保証しています。受講者ゼロのユニットは授業科目ではないインターンシップのみです。

Q：ライフプランニング総合学科が目標としている検定で医療事務関連の資格で、保険請求事務技能検定試験を導入した理由を教えてください。

A：ある程度努力すれば合格が見込め、社会的認知度もある資格ということで決めました。

Q：貴学のライフプランニング総合学科のみから採用される企業もあるということですが、このような企業の場合は、学科推薦のような制度を取り入れられていますか。

A：学科推薦は実施していません。また求人が来て受験しても、必ず採用して貰える訳ではありません。この2～3年で入社した卒業生の社内での評価が反映されたものであると思います。同時に本学科の教育内容を理解されたからだと思われます。以前も仕事が評価された卒業生の会社から、求人が続いたことがあります。

Q：授業時間は90分ですが、試験時間が50分の科目が見られます。その理由を教えてください。

A：履修規程（学生便覧42ページ）にありますように試験時間は通常50分としています。授業を15回行った後に補講期間、その後に単位認定試験期間を設け、試験用の時間割を組んでおります。

Q：履修規程では、交通ストライキによる授業の取扱いが記載されていますが、気象警報等による授業や試験の取扱いはどのようになっていますか。

A：気象警報等による授業や試験の取扱いについては、規程に記載する検討を行いました。学生の通学経路も多岐にわたるため見送りました。現在は短大WEBサイトを活用し対応をアナウンスしています。事前に明らかになっている場合は校内放送を用いアナウンスしております。個別の交通機関のトラブルについては事後に取り扱いを掲示し対応しています。

Q：「山内学園合同職員会議」とはどのようなもので、毎年行われるのですか。

A：毎年、新年度初め（3月31日）に本学・附属幼稚園3園・香蘭ファッションデザイン専門学校の教職員を短大に集め開催しております。内容は、理事長年度方針、各学校の役職者・新入教職員紹介、事務連絡等です。

Q：保育学科の資格・免許取得率、そして保育職への就職率はどのくらいでしょうか。

A：資格・免許取得率は、平成27年3月卒業生（163名）において幼稚園教諭二種免許取得96.3%（158名）保育士資格取得90.8%（148名）、平成28年3月卒業生（153名）において幼稚園教諭二種免許取得95.4%（146名）保育士資格取得同じく95.4%（146名）です。保育職内定率は平成27年3月卒業生（就職希望者151名）において90.7%（137名）、平成28年3月卒業生（就職希望者144名）において91.7%（132名）です。

Q：「助手」とはどのような人を指しているのでしょうか。

A：学習成果の獲得に向けた学生支援や授業の補助のため、各学科に職員室を設置し（ライフプランニング総合学科は学生支援室）、助手等（主任助手、助手、副手）を配置しています。助手等の審査基準は「役職者の任免及び昇格等に関する規程」に定めています。助手等は、学科事務、学園祭やオープンキャンパス等学校・学科行事業務の補佐やクラスサブアドバイザーとしてアドバイザーと協力しクラス学生の状況把握を行っています。

■訪問調査（高松短期大学から香蘭女子短期大学への質問事項）

Q：自己点検・評価報告書に出ているクラスとクラスアドバイザーの定義について教えて下さい。高校までのいわゆる学級と異なるのか違いはあるのか、また研究室という言葉もありますが、本学では研究室に学生が所属するシステムをとっているが、その点との違いについて等、お聞きしたいと思います。

A：香蘭女子短期大学クラス制をとっており、ファッション総合学科3クラス、食物栄養学科2クラス、保育学科4クラス、ライフプランニング総合学科4クラスがあります。それぞれのクラスにクラス担任、クラスアドバイザーがいます。また学年に学年主任がいます。授業や行事はクラス単位で行うことが多いです。入学式卒業式も全学行事のあとクラス単位で実施しています。卒業証書もクラスで授与しています。学園祭もクラス単位で活動しています。クラスの入学後の変更はありません。休学により学年が変わった場合は下の学年に在籍クラスが移動します。学生は必ずどこかのクラスに所属します。研究室は教員のいる部屋です。学生には研究室に訪問し教員に積極的に相談することを推奨しています。

Q：1クラスは何名ですか。

A：定員をクラス数で割っています。

Q：クラス担任が、学生生活の支援や就職も行っているのですね。クラスが単位となっているのですね。クラスの分け方はどうですか、出身地別などあるのですか。

A：学籍番号順で分けています。

Q：クラスは2年間変わらないのですか。クラス担任も持ち上がりでしょうか。

A：ファッション総合学科、食物栄養学科では持ち上がりです。保育は4クラスあり、場合によっては変えることもあります。ライフプランニング総合学科では、以前は固定していた時期もありましたが現在は持ち上がりになっています。全学的に統一された決まりはありません。

Q：クラスの最大的人数は何人ですか。1年生のアドバイザーになった教員は2年生のアドバイザーにはなれないのでしょうか。我々は1・2年の学生を受け持っておりイメージが湧かないので教えて下さい。

A：保育の場合ですが留年生等含め最大45名程度です。アドバイザーは複数のクラスを受け持つことはありません。クラスアドバイザーは前年度末の代表教授会で決定され、学生には年度初めの4月に公表されます。担任とアドバイザーは同じものです。

Q：さらにサブアドバイザーの先生がおられるのですね。

A：サブアドバイザーは、学科の幅広いサポート業務や、アドバイザーの出張等不在時に対応しています。学生の対応は基本的にアドバイザーが行っています。

保育学科では150名を4クラスに分け、担任がいます。2学年で8名の担任がいます。サブアドバイザーについては保育学科の場合は教員に限られていますので職員室の助手（教員ではない）に2クラスずつ入ってもらっています。

Q：担任は40名程度を受け持っておられるのですね。

A：食物栄養学科では80名定員ですが、栄養士免許に関係する科目があり、栄養士法施行規

則に準じて最大 40 名のクラスにしています。

Q：本学では研究室制度といい 1 名の教員に 2 学年計 20 名前後の学生が所属しています。それに比べると貴学では担当人数が多いのですが、昨今多様な学生が入学するようになり、授業に出てこない、欠席がちである、または行動の問題、といったことに対し、どのように対応しておられるのでしょうか。

A：保育学科では受け持ち人数は多いのですが基本的にはクラス担任が対応しています。保育学科の学科会議で報告してもらい学科内でも共有し、学生と教員の相性の問題や、担任個人での対応の限界もありますので、学科全体で対応するようにしています。担任と合わないことがあれば学科の他の教員に相談することもできるようにしています。担任との面談での様子や各授業での様子などを学科で情報共有しています。受け持ち人数の多さによる問題は起きていないと考えています。

Q：本学ではクラスと担任は別になります。クラス以外にゼミはあるのですか。

A：学科によって異なります。卒業研究のある学科はゼミがあります。

Q：担任が就職まで指導するイメージですね。

A：就職に関してはゼミの教員がアドバイスすることもあります。多様な支援を行っていません。アドバイザーだけでは気が付かないようなこともゼミだと人数が少ないので気付くこともあります。学生と教員の相性もないわけではありません。担任にすべて任せるわけではなく、学科全体で学生の情報を共有しないといけないと考えています。

そもそも何故クラスかと言いますと、前理事長またはその前の時代からか、女子学生には居場所が重要であり、居場所を確保することが重要であるという発想のもとで、メインはクラスということやってきています。

教員が研究室に在室するときに学生が訪れることは勧めています。

Q：本学では教員研究室と学生研究室に分かれています。学生研究室という学生の居場所の部屋があります。学生研究室は教育研究室の目の前にあり、1 週間に 2、3 回、昼休み等に学生研究室に顔を出しいろんな話をしています。

A：うらやましい環境です。

Q：クラスルームはいつでもいて良い部屋でしょうか。

A：もともとはそのような考えでしたが今はそうはいかず、教室の確保はできなくなっています。その分学生ラウンジなどを整備していますが、同じクラスの学生が集まるわけではありません。クラス別のロッカーはあります。

Q：クラスで集まる時間は週 1 回確保されているのですか。

A：火曜日 1 時間目に総合演習という時間があります。初年次教育、就職指導、学園祭など行事に向けての話し合い等を行っています。

Q：授業もクラス単位で受講しているのでしょうか。授業によっては学年全部など、様々な形態がありますが、どのような形態が中心でしょうか。

A：保育学科はクラス単位が中心です。合同も 2 クラスまでです。ファッション総合学科では自分で時間割を組み立てるのでそれぞれ時間割が異なります。クラス担任とは会うのは総合演習の授業だけという学生もいます。ライフプランニング総合学科もユニット制でクラス

はバラバラです。必修科目はクラス単位で受講していますが必修科目の数は少ないです。総合演習は2年間開講されており、この時間がクラスの時間として機能しているのではないかと考えています。

Q：ファッション総合学科では技術力が低下傾向とのことですが、ファッションの領域でも高等学校の教育に何か影響がしているとお考えでしょうか。

A：現在、普通科の高校では、家庭科の授業の中で洋服を作るという時間が全くありません。高校の「家庭基礎」の内容をみましても、170ページの教科書の中で、縫うことに関する説明は、裾まつりとボタン付けの方法が半ページに記載されているのみです。また参考資料としてエプロンの作り方の説明はありますが、授業時間で製作することはほとんどないようです。このように針を使う機会も少ないために、針に糸を通すことも苦手、ミシンを使ったこともない生徒がほとんどです。家庭にミシンがあるところも少ないようです。服飾関係の若い高校教員の被服製作の技術力の低下も懸念されるようです。

Q：そのことにより授業内容を変えていくことが発生しますか。

A：おっしゃる通りです。本学では必修科目としてスカート・ブラウス製作を行っています。被服関係学科出身の学生と普通科から来た学生では差があり、授業を分けています。普通科から来た学生には指導に助手も入れてしっかりと教えるようにしています。専門課程出身の学生には課題を変える等分けて指導しています。

Q：習熟度別クラスを取り入られているのですね。他の授業ではどうでしょうか。

A：1年後期になると普通科出身の学生もずいぶん追いついてきます。

Q：保育学科の学生のうち、どのくらいの割合の学生がサークルに参加していますか。

A：本学では火曜日4限目は時間割においてクラブ活動（＝サークル活動）の時間としており、この時間には授業は入らないようにしています。クラブ活動参加は任意です。参加していない学生は、自由な時間です。学友会・香蘭祭実行委員会に参加する学生もいます。保育学科では学生にできるだけクラブに入るよう声をかけていますが参加する学生は多くありません。

Q：3限目の授業が終わったら解散ということでしょうか。

A：現実保育学科はタイトで、5限目（18：10）まで授業がある日もあります。その中で火曜は3限までの授業となります。この日は自分の活動の時間と考えています。

Q：本学でもサークルに参加するのはなかなか難しい状況です。中には参加したいが授業が忙しいとかボランティアやアルバイトがあり難しい学生もいます。ただ満足度を上げることを考えたとき、時間を空ける方法もあることが参考になりました。一方で学生から入りたい、参加したいクラブがないこともあります。保育学科の学生に人気のクラブはありますか。

A：ダンスクラブなどです。保育学科はボランティアクラブの学生も多くいます。逆に学生が希望すれば同好会を作ることができ、予算がつきます。クラブは先生が入らないといけないうことがあり、教員の多忙さの問題もあります。いいですよという先生もおられます。本学で一番強いのはバレーボール部です。着付けクラブ、染色クラブも全国大会に出場していま

す。クラブは学科を超えて活動しています。

4時間目のクラブの時間は全学的に盛んにしようと始まったわけですが、現状はクラブの参加人数が13%程度です。現実には、どこの短大も同じではないかと思えます。奨学生が多く、その説明会がこの時間にしか入らないこともあります。あるいは就職決定者ガイダンスなど全学的にこの時間しかとれません。クラブの時間として確保することが課題です。指導者も現実的には外部指導者が入らないといけないこともあります。本学では茶道部、バレー部は外部の指導者です。外部指導者の確保、講師の手当等が課題です。4学科で時間をそろえることは意義があります。先ほど名前の挙がったサークルは工夫して活動しておりその点は支援をしたいと考えています。

Q:本学もクラブと同好会があります。活動しているものと活動していないものがあります。貴学の場合は、ダンス、バレーボールといったスポーツ系、着付け、染色といった文化系、といったところに人気があるようです。意欲的なクラブに共通する要素は何かをお聞きしようかと考えていましたが、先ほどのお話では、指導者の入り方と学生のニーズ、そういったところでクラブ活動が進むのでしょうか。

クラブを始めたい気持ちは認めますが、教員の時間の問題や技量を持ち合わせないこともあります。19歳20歳の思考と私のような年齢とのずれがあることもあります。このようなことが整理したところですが、いかがでしょうか。

A:先日の本学FSDS研修会で事務局スタッフも学生の支援サポートとしてのクラブ活動への参加がテーマの一つになりました。将来的には月に1回でも何らかの形で参加して学生と関わる機会を持つのもよいのでは、意見も出ています。

Q:クラブが豊かであれば学生にとって魅力です。場所、経費、支援が難しいところです。

A:本学の学園祭では軽音部、ダンス部が出演し日頃の活動の成果を発表しています。本学は学園祭が盛んな短大です。

本学は同好会は3名以上、クラブは5名以上で新設を認めています。指導者と主体的な取り組みで、盛んになると思えます。ただし中心となる学生が抜けると衰退することはあります。同好会の予算は5000円、クラブには2万円以上と規定されています。

Q:履修規程(学生便覧48ページ)の質問です。「あらかじめ座席が指定されている」とありますが全ての授業が座席指定と理解してよろしいでしょうか。

A:先生の指定依頼があれば対応していますが、座席自由の授業の方が多い現状です。

Q:本学保育科では多くの授業で座席指定しています。学籍番号や研究室単位などにより決めています。御校ではいかがでしょうか。

A:本学保育学科でも座席指定は多い状況です。学生の様子をみて座席を考えています。

Q:試験時間割のことについてお聞きしたいと思います。書面調査でもお聞きしましたが確認させてください。本学では試験は授業時間を同じ時間帯で実施していますが、貴学では履修規程にあるように50分もしくは60分ということで授業より少ない時間で実施しています。何か理由があるのでしょうか。

A：15 回実施した後に試験期間を設けています。試験期間の時間割は 50 分単位で組んでいます。試験期間が長くないよう試験を実施する科目のみで時間割を組む作業をしています。学事日程では授業と試験を別途設けています。授業 15 回に加えて試験を実施しているので問題はないと考えております。90 分も教員により選択可能ですが現状 50 分が多いです。

Q：退室時間は決まっているのでしょうか。

A：30 分経過後です。

Q：試験問題は 50 分で回答する量ということでしょうか。

A：教員が時間希望を出すので応じた量だと考えています。

Q：学生便覧 43 ページ、再試験について教えて下さい。全ての科目において学生は再試験を受けることが出来ると理解してよいのでしょうか。本学では再試をしないという教員もいます。

A：はい。再試験期間を設けています。

Q：ライフプランニング総合学科「学習成果賞」「コース修了証」について、書面調査でもお聞きしていますが、詳しく教えて下さい。

A：「学習成果賞」は、本学の特徴である多様な開講科目と、多くの資格・検定を取得できる仕組みを、学生に大いに活用してほしいという目的で設定しました。毎年数十名は受賞していますので、一定の効果はあると思います。「コース修了賞」は総合学科であり、多くの科目を開講してまますので、興味が拡散し自分が何を学んだのかを明確に説明できない学生がいた為に設定しました。その結果、コースの意識はできるようになったと考えます。就職面接でもライフプランニング総合学科とは何を勉強するのかと聞かれますが、学生に自分の学習歴を意識させることには、役立っていると思います。

Q：学習成果賞はユニット+資格をとった学生に何名でも与えているのでしょうか。何かの機会に、学生の前で授与しているのでしょうか。

A：はい。卒業式にクラスにて他の学生の前で授与しています。かなりの人数が該当します。

Q：4 学期制についてお聞きしたいと思います。試験と授業が混在する期間がありますがどう対応されているのでしょうか。

A：スケジュール調整は行っています。試験については 90 分で組んでいます。

Q：紙媒体のシラバスは見やすいと思います。本学は WEB システム導入により紙媒体のシラバスをなくしたのですが、WEB シラバスを見ない学生もいます。

A：保育学科は選択の余地がありませんが、ライフプランニング総合学科は選択科目も多く意義はあると思います。しかし学生は熟読している感じではありません。

Q：履修指導時の利用が主になりますね。

A：そうですね。

Q：自己点検・評価報告書（以下報告書）59 ページの教育課程編成・実施の方針について、

保育学科のみ学生が主語になっているのは特別な意味があるのでしょうか。また全学で整える作業はいかがでしょうか

A：学生の姿からスタートしてこのような形になりました。教育実践を繰り返す中で、相応しい表現になるよう検討は続けます。

全学的には3つのポリシーの見直しを行いました。学科の独自性もあり平成29年度はこの形となっています。

Q：報告書72ページ（基準Ⅱ-B-1）に関する質問です。食物栄養学科では、オフィスアワー時に学生生活全般に関することや就職指導等をされておられますが、オフィスアワー以外にどの程度指導する機会はあるか教えて頂きたいと思います。

A：オフィスアワーに限らず空き時間でフォローしています。あとは授業で関わっていますが、授業で見える部分もあります。例えば学力的な問題です。月1回の学科会議で共有し、この学生はこうだ、どうやって育てようか、といろんな角度からケアしていこうと教員間で話しています。

Q：研究室のドアにオフィスアワーの掲示がありました。時間まで明示しておられます。本学も設けていますが実際の効果の問題があります。保育学科では過密なカリキュラムです。

A：出来るだけドアをオープンにしています。セキュリティの観点からは悩ましいところですが、学生と教員の壁を薄くしてやらないといけないと考えます。

Q：成績については学科内で把握しておられます。保育学科では成績順位を個人面談の際にクラス担任による個人面談時に口頭で伝えているとのことですが、他学科ではいかがでしょうか。

A：ライフプランニング総合学科では成績優秀者は表彰していますが順位は知らせていません。ファッション総合学科では上位成績優秀者は表彰しています。どうしても順位を知りたい学生には伝えていますが、食物栄養学科では伝えていません。S 特待生制度がありますが、成績順位が次年度の授業料減額に関係することは伝えており、アドバイザーから状況を伝え激励はすることはあります。

Q：順位は上位のみ伝えているということですか。

A：学科賞は成績上位者が対象です。

保育学科の場合は順位よりも換算したK-GPAを伝えることに重きを置いています。

Q：K-GPAについてですが、本学もGPAの活用法を検討しています。短期大学では奨学生の基準など用いられていますが、貴学ではどう活用されておられますか。

A：進級指導会議の基準として150点に満たない学生に、同じことを2年次には繰り返さないようにと進級指導という形の激励をしています。

Q：ファッション総合学科にお尋ねしたいと思います。学生の成績を共有しているとかありますが、どの程度でしょうか。

A：学年会を月に1回実施しています。なかなか時間がとれませんが、状況を共有する場としてしています。成績や受講態度、生活、友人関係、授業担当者が、パターン力、縫製力、デザイン力、専門の教員が情報を出し合います。デザイン力はあるが縫製力はこのぐらい等のようなものです。そうするとその学生への理解が深まります。履修指導の時にも、例えばデザイナーを希望している学生に対し、その学生の力を見てアドバイスできます。次の履修指導の際にもその資料も使えます。

Q：丁寧にされていらっしゃるんですね。

Q：報告書71ページの「朝礼」とはどのようなものですか。毎朝あるのでしょうか。

A：原則、毎週火曜日9時から短大の全教職員が1つの教室に集まって教職員朝礼を行っています。所要時間は長くて15分ほどです。内容は主に全学に及ぶ事項の連絡で、FDの顕彰以外では、理事長による文部行政報告や入学試験・卒業式・入学式・学園祭等の係分掌、学生指導・体育祭等の協力要請、外部での研修・研究発表の紹介、その他事務連絡です。火曜日は全教職員が出勤する日となっています。

Q：アドバイザーは個人面談をされていますが。どのくらいの頻度でしょうか。

A：決まったものは、例えば入学直後に行っています。それ以外に必要なに応じ行っています。入学生は一人ひとり把握しないとイケません。およそ15分程度。目安としては入学直後、1年後期実習・就職を前にした時期、2年前期就職前です。2年後期は個別に就職指導を行っています。

Q：カリキュラムは魅力あるものを作っても人が集まらないとイケません。今回ライフプランニング総合学科がメジャー制に切り替えられますが、どのようなことをねらっているのでしょうか。

A：総合学科ということで、広く浅くという路線であったものを、より専門性を深められるような、そういうねらいがあります。また学長より数年前に、週に1回の講義では間延びしすぎるのではないかと指摘があり、検討しました当時は実現しませんでした。今は国立大学が導入し、短期大学も学習成果を高めるためには週2回行った方が、学生の学びにプラスになるのではないかと考えました。週2回で終わらせた方が効率がよいのではないのでしょうか。

Q：私も検定対策科目はその方が良く考えています。学生に効果があるのは事実だと思います。

Q：メジャー制はユニット制と比べどう違うのでしょうか。ユニット制は完成させる、メジャーは完成しないという違いでしょうか。

A：メジャーは指定科目があります。それを中心に学んでいくとその分野における知識を高めることができます。ユニット制では関連科目群を5科目か6科目履修しますがその縛りはなくなりました。

Q：1年前期に7つのメジャーから選択するスケジュールですね。希望を1つとって、1年後期から分かれる形ですね。例えば一般事務をとった場合はどのくらいのレベルの一般事務まで進むのでしょうか。

A：週6コマはありますので専門性を深めることはできます。

Q：コース制にするとコースの学生しか会わないような状況でしょうか。一般事務メジャーでは他の学生と会わないのでしょうか。

A：必修科目、総合演習、基礎科目、教養科目では会います。

Q：メジャーは学生の希望通りにとれるのでしょうか。

A：はい。ユニット制も1名でも希望者がいたら開講しています。

Q：公務員も本学も作りましたが、学力的に難しい学生がいても開講するのでしょうか。

A：希望があれば開講します。これまでも条件をつけずにやっています。

Q：ユニット制と異なるのは科目を厳選したことは大きいですね。

A：開設科目数も2年間で50～60減らしています。

Q：報告書の基準Ⅱ-B-3に体育大会と学園祭には全学生が参加するとあります。学生はどのような参加形態でしょうか。授業単位や成績評価、学習成果との関連はどのようなものでしょうか。保育学科の劇についても教えてください。

A：体育大会は土曜日に実施しています。欠席しても単位には関連しません。目的はクラス内の交流、学科間の交流、教職員との交流です。交流の機会として5月下旬に実施しています。学友会のスタートの行事でもあります。参加率は例年95%程度です。クラスTシャツを作るなどして団結は高まっています。香蘭祭は対外的な交流の場と考えています。

保育学科では、学科行事は全員出席としています。教育の一環と考えています。香蘭祭では保育学科は1年と2年の縦割りクラスを組み、4つのイベント、内訳として劇を2つ、広場を2つ行っています。教員も入っています。成績評価は行っていませんが、保育現場で必要な実践力や協働力を培う場になっています。頑張りには保育学科賞の評価の対象としています。

（2）香蘭女子短期大学から高松短期大学への質問事項（Q）とその回答（A）

■書面調査（香蘭女子短期大学から高松短期大学への質問事項）

Q：「研究室」の所属学生はどのようにして決定するのでしょうか。

A：【保育学科】

保育学科では、入学式後の学生オリエンテーションにて新2年生が出演する研究室紹介ビデオと研究室教員の説明を見聞きして、第一から第四までの所属希望を聞き取り、当日中に集計し、ほぼ均等に割振して、学科会議で協議後、翌日以降のオリエンテーションに組み込まれた研究室活動までに発表・決定しています。

なお、以上のような手続き前から、オープンキャンパス・大学案内・短大ホームページ等でも研究室制度や研究室の特徴（学生数、教員名や人柄、活動目的と内容、雰囲気等）については説明されています。また、地元出身ならではの中学・高校の先輩後輩つながりや入学

生同士のネットワークの中で、研究室や教員、所属学生に関する情報のやりとりはある程度なされているようで、スムーズな研究室割振につながっています。

【秘書科】

入学前に3つのコースのどのコースで学びたいか希望を聞き、コースを決定します。入学式当日、最終のコース決定を待ち、各コース内で2つの研究室に機械的に振り分けます。

Q: 秘書科においては、研究室はコース毎に所属する学生数を均等にしているのでしょうか。それとも、研究室毎に違っているのでしょうか。

A: 【秘書科】

学生の希望のとおりによりコースを決めますので、各コースにより人数は異なります。研究室の学生数に関しては、同一コースの研究室の人数は同じですが、異なるコースの研究室の人数は異なります。

Q: 授業以外で、学生の研究室での滞在時間はどれくらいになるのでしょうか。

A: 【保育学科】

保育学科学生は、昼食・空き時間の居場所・レポート等の課題作成・ピアノ練習・公務員試験等の勉強、ロッカー利用等、幅広い目的で研究室を利用しています。利用時間は学生や学年、曜日・時期等で大きく異なり、カリキュラムの過密さも相まって、長い者で1日2時間程度かと思われれます。ただし、滞在時間に関してアンケート等の調査をしていないため、正確な時間は把握できていません。

【秘書科】

学生は、空き時間を研究室、図書館、パソコン室、らっくんホール、食堂、本館の1・2階ホールなどで過ごします。学生によって過ごす場所が違います。時間帯は8:30頃から18:00頃まで使用しています。しかし、正確な滞在時間は調査していませんので不明です。

Q: 研究室の施錠や解錠は責任者がいるのでしょうか。何時まで開放されているのでしょうか。

A: 【保育学科】

保育学科の研究室は基本的には施錠されません。常時開錠されており、建物に出入りできる日時であれば、所属学生は自由に出入りできます。ただし、あくまで出入りは関係者（学生と教員）のみとしており、学生研究室に直面する位置にある教員研究室からは常時廊下や学生研究室等での異変に気をつけて対応できるようしています。訪問者には挨拶・声掛けし、必要であれば案内等もして、不必要な場合は立ち入りを制限し注意します。不審者の場合には、学生課への連絡と共に、緊急時は警察に通報することも、教員及び学生に周知し掲示もしています。

【秘書科】

研究室は施錠していません。研究室内に各学生にロッカーを貸与しており、学生がロッカーの鍵を管理しています。鍵は入学時に渡し、卒業時に返却してもらっています。研究室の

窓やエアコンなどの確認は、事務職員が 18:00 前に一度行い、その時点で学生が滞在している場合は 20:00 に再度チェックを行っています。

Q：研究室での学生のマナー等についての規則は定められていますか。

A：【保育学科】

保育学科には規則まで厳格なものはありません。ただし、研究室教員の指導のもと、研究室利用の学生マナーは徹底しています。例えば、研究室への入室時へのノック、ロッカー利用のマナー、ゴミ捨て時の分別、研究室の清掃・整理整頓、エアコンと電灯の管理・節約、窓の施錠、換気システムの利用といったことをはじめ、授業時間帯の研究室利用制限（不可）や貴重品の管理、不審者対策といったことも周知しています。

【秘書科】

マナー等については、秘書科全体に対する周知事項があります。4月のオリエンテーションで1、2年生全員にプリントを配り講話をします。研究室への入室のマナーは、オリエンテーションでの説明に加え、ドアに注意事項を貼っています。

研究室毎に決まりはありますが、研究室担当教員が決めています。

Q：研究室の中で、学生組織（委員など）がありますか。

A：【保育学科】

全学的に研究室ごとの学生役員（室長、副室長、環境美化委員、アルバム委員、卒業委員）が半期任期で設けられています。そのほか、保育学科独自の委員としては大学祭における「ほいくのくに」運営委員があります。また、研究室教員によっては、研究室活動の時間に模擬保育を行う場合の役割分担、児童文化部を有する研究室では部運営のための役割分担等が組織されているようです。

【秘書科】

大学全体で学生組織を作っています。学生課が主体となって、各研究室の委員を決めて、運営しています。研究室に於いても、委員がさまざまな役割を果たします。例えば室長、副室長、環境美化委員、アルバム委員、卒業委員などがあります。

Q：研究室での1年生と2年生の交流はありますか。

A：【保育学科】

2年間の短大生活はとても短いものですが、地元出身の学生も多いことから中学・高校での先輩後輩に続く関係性の中にいる者もいて、比較的スムーズな交流があります。研究室を中心として、新入生歓迎セミナーや大学祭、模擬保育や実習の意見交換会といった一緒に楽しみながら教え合い切磋琢磨する時間・行事を意識的に設けて交流しています。

【秘書科】

週1回の研究室活動は、1、2年生合同で実施されています。また、1・2年生合同で実施される行事として、学外セミナー（テーブルマナー）、大学祭模擬店、スポーツ大会、実習報告会、卒業研究発表会等があります。

Q：研究室間の交流や共同研究はありますか。

A：【保育学科】

研究室間の交流は学生も教員も双方にあります。それぞれの研究室への所属意識や結束・連帯感はもちろんありますが、それに縛られたり、他を排除するような雰囲気はありません。むしろ、保育学科全体としての結束・連帯感の方が強く感じられます。授業や実習をはじめ、そもそもの所属目的（保育者になること）が共通しているからだと思われます。共同研究については、1年次に保育学研究法という授業があり、研究室ごとのテーマで研究します。指導の中心は授業担当教員が行いますが、報告書をまとめる中での中間発表会と成果報告会では研究室間で質疑応答し合い、その研究テーマについての理解を深めています。その発展形として、2年次には各自で卒業研究に取り組み、総括の発表会では1、2年生全員参加の発表と質疑応答が行われます。

【秘書科】

研究室間の交流は、学外セミナー、大学祭、スポーツ大会が主なものです。コースには2つの研究室があり、コース内の交流は頻繁に行われます。

共同研究はほとんどありません。

Q：「長年築いてきた就職先との強い信頼関係を築く」とありますが、就職先は県内の占める割合はどの程度でしょうか。

A：【保育学科】

本学が幼稚園教諭と保育士を輩出してもうすぐ半世紀になります。そのため、保育学科が主に就職先としている保育所・幼稚園で言うと、県内ほぼすべての現場に卒業生が在職しています。実際ここ3年分の卒業生の就職先を見てみると、県内127の私立園のうち、56園（44.1%）に1～4名が就職しています。ここ3年は公立園への就職も増えており、高松市をはじめ、丸亀市、三木町、東かがわ市、さぬき市との信頼関係も強まりつつあります。

【秘書科】

平成25年度：89.5%、平成26年度：90.9%、平成27年度：90.0%

Q：保育学科の非常勤講師との懇談会は、頻度としてどの程度行っていますか。スケジュール調整は大変と考えますがどの時間帯で実施されていますか。

A：【保育学科】

年1回、11月の第4土曜日午前中に開催されています。しかし、出席率はさほど多くはありません。保育学科はここ3年間で1名いらっしゃるかどうかわかりませんが、これについて、スケジュール調整の大変さは重々承知しているため、実際の授業日に出勤されたときの空き時間を利用し、学生の状況について情報を得たり、またこちらから非常勤講師に学生の情報を提供し、共に学生を見守り、指導していくよう努めています。

Q：秘書科のコース制は自由に選択できるのでしょうか。

A：【秘書科】

自由に選択できます。12月に入学前説明会を行いコースの説明をします。7日から9日くらい考える時間を設け、ハガキにより希望を調査しています。入学前説明会に来ていない学生は、3月に2回目の入学前説明会を行い、その日のうちにコースを決定してもらいます。

Q：自由に選択できるとすれば、コースで人数の偏りが起きませんか。

A：【秘書科】

人数の偏りはあります。

平成26年度入学生	ビジネス秘書コース	21名	医療事務コース	14名
	サービス実務コース	14名		
平成27年度入学生	ビジネス秘書コース	26名	医療事務コース	27名
	サービス実務コース	13名		
平成28年度入学生	ビジネス秘書コース	25名	医療事務コース	27名
	サービス実務コース	10名		

Q：コースの人数が決まっているとしたら、不本意なコース選択をする学生がいるのでしょうか。

A：【秘書科】

学生の希望のとおりによりコースを選択できます。

Q：コースの変更は可能でしょうか。可能ならどの期まででしょうか。

A：【秘書科】

入学式後に各自の選択したコースについて再度確認をして、その後、コースは変更できません。

Q：保育学科ドイツ語は英語を履修し、さらに外国語を学びたい学生が選択する科目と理解しましたが、履修者は何名程度でしょうか。

A：【保育学科】

いいえ、そうではありません。そのため、ドイツ語の履修はここ3年間0名です。

Q：保育学科「観察参加」について詳しくお聞きしたい。「子ども理解」との関係についてご教示いただきたい。

A：【保育学科】

シラバスにある通り、「観察参加」は保育学科の特色的授業の1つです。1年次後期から始まる授業で、現場に出る心得等の理解および子どもや保育の観察の仕方を学内で学んだ後、幼稚園に出向きます。そして、保育者と子どもたちのやりとりを見たり、子どもと接する時間を持ちます。その中で、子どもの思いを理解することや、保育者の援助にはどのようなことがあるのか、さらにはその援助の意図を考え、記録にまとめます。これら一連の活動の振

り返りと教育的意味づけを行うのが「子ども理解」の授業です。前身の「子ども研究」時にその関係性を高松大学紀要（第 39 号，p. 153～170）にて説明しています。

Q：保育学科「野外活動実習」は選択科目（1 年前期開講）ですが、履修者は何名程度でしょうか。

A：【保育学科】

全員履修を原則としています。選択科目ではあるものの、保育学科に所属する保育者になりたい学生にとっては欠かすことのできない自然体験と健康・安全管理、集団生活・集団行動について学ぶ機会として位置づけています。ここ 3 年間の履修者は、平成 25 年度が 95 名、平成 27 年度が 67 名でした。なお、平成 26 年度は台風接近・上陸といった天候不順による中止となりました。

Q：秘書科の履修モデル科目は、コースの指定科目（履修はしなくてはならないが、単位取得は要件になっていない）と理解してよろしいでしょうか。

A：【秘書科】

その通りです。履修モデル科目を履修するように指導しています。選択科目を取得できない場合でも、卒業に必要な単位を満たしていれば、卒業できます。

Q：秘書科において、履修モデル科目の他コースからの受講に何らかの条件（人数制限など）はあるのでしょうか。

A：【秘書科】

原則コース外科目の履修を認めておりませんが、2 年次において、自分のコースモデル科目の履修に追加してかつ、担当教員が履修を認めた場合（受講人数や履修している科目、履修した科目等の条件があります）コース外の科目を履修できます。

Q：秘書科において、一年次の履修モデル科目の未修得者は、二年次の履修の義務があるのでしょうか。

A：【秘書科】

必修科目は履修の義務があります。選択科目は履修を推奨しますが、履修の義務はありません。

Q：秘書科において、ローマ数字の科目は積み重ねの科目でしょうか。Ⅰの単位を修得していなくてもⅡの履修が可能な科目はありますか。

A：【秘書科】

積み重ねの科目です。Ⅱの履修が可能な科目は、基礎演習Ⅱ、応用演習Ⅱ、ビジネス実務Ⅱ、IT 活用演習Ⅱ、情報機器演習Ⅱ、日本語表現Ⅱです。

Q：秘書科において、必修科目や履修モデル科目の再履修について、時間割で何らかの措置

を講じていらっしゃるでしょうか。

A：【秘書科】

必修科目の再履修と必修科目が時間割上重なるかのチェックのみ教務委員がしています。もし重なっている場合は、可能なかぎり他の時間帯に移動させます。

Q：秘書科全学共通科目において、1年次にコミュニケーション科目を多く取った等の理由で、2年次に開講されている教養科目を選択しないということはないのでしょうか。あるいは教養科目を選択させるような学科内規があるのでしょうか。

A：【秘書科】

秘書科全学共通科目の1年次に開講できるすべてを履修したとしても6単位ですので、2年次には、4単位以上履修して合計10単位以上にする必要があります。

Q：卒業時の取得単位の平均はどのくらいでしょうか。

A：【保育学科】

ここ3年間の卒業時の取得単位の平均は、平成25年度（61名）が89.15単位、平成26年度（88名）が91.07単位、平成27年度（53名）91.70単位でした。

【秘書科】

平成25年度生（平成26年3月卒業）73.38科目

平成26年度生（平成27年3月卒業）71.7科目

平成27年度生（平成27年3月卒業）70.57科目

Q：「各同窓会」とありますが学科毎の同窓会組織でしょうか。

A：【全体】

高松短期大学同窓会「春日会」があり、学科ごとに部会があります。現在は、児童教育学科部会、幼児教育学科部会、保育科第二部会、保育学科部会、秘書科部会、音楽科部会があります。

また、地区別の支部は、現在、愛媛支部、高知支部、大阪支部があります。

Q：出席状況の公開は行っていますか。Webシステムで学生は確認可能でしょうか。

A：【全体】

出席状況の公開は行っていません。Webシステムで学生は確認できないようにしています。

Q：履修登録に利用するパソコンの台数を教えて下さい。

A：【保育学科】

保育学科では、学年一斉に履修登録します。そのため、一人一台のパソコンを利用します。定員80名のときは学生・教員共に2教室に分かれて行きます。学部学科ごとに時間をずらしてパソコン利用するので、台数不足で困ったことはありません。

【秘書科】

約 160 台です。

Q：履修登録について（履修ガイド p46）、1 年分を前期にまとめて登録するようになっているが、後期は登録変更期間があるが、前期は履修登録期間に必要ながあれば変更も行うことができるという理解でよろしいでしょうか。

A：【全体】

その通りです。履修登録期間内であれば、変更は可能です。

Q：秘書科において、コースの学生全員のミーティングはありますか。

A：【秘書科】

定期的には行っていませんが、コースによっては検定対策、就職活動、実習などについて学年ごとにコースミーティングを行っています。

Q：保育学科の履修指導に「2種類のクラス分け」とあるが、授業は2クラスに分けて実施しているということでしょうか。

A：【保育学科】

いいえ、違います。

保育学科では、授業形式によって2種類のクラス分けがあるということです。すなわち、講義形式の授業（保育士資格科目）では50名を超える受講生がいる場合は、AクラスとBクラスに分けて授業を実施します。そしてもう一つは、実技形式の授業では少人数クラスを編成し、イ・ロ・ハ…クラスに分けて授業を実施しています。

Q：毎月1週間「マナーアップ週間」と定め、挨拶・身だしなみ、清掃、各種マナーの徹底を図っていることは良い取り組みと思います。

A：【全体】

マナーアップ週間では、朝の指導時間には駐輪場等において教職員当番による立哨指導を行っています。

また、マナーアップ週間の期間中に、日時を決めて学科ごとに大学周辺清掃を行っています。（5月秘書科、10月保育学科）

Q：学生に対しての勉学奨励金について詳しくお聞きしたい。

A：【全体】

学術・文化・スポーツ等の各部門において、顕著な成果を挙げ、本学の名誉を高めた者に対して、申請により学生委員会で選考の上、学長へ推薦しています。その後、学長から賞状及び副賞を授与しています。

学校法人四国高松学園学術振興基金規程に基づき、主に本学が募集する海外研修等国際交流事業に参加する学生に、申請により学生委員会で選考の上、学長へ推薦しています。被推

薦者を学術振興基金選考委員会で選考の上、助成金を贈与しています。

Q：入学後2年次から対象の独自の奨学制度についてお聞きしたい。

A：【全体】

在学生を対象とする一般奨学生制度があり、勉学意欲が旺盛で人物、学業成績ともに優れた者でかつ経済的理由により修学が困難な者に対して、申請により奨学生選考委員会で選考の上、授業料全額または授業料の2/3もしくは1/3を免除しています。（1年間）

Q：「母となる女性の教育」の必要性から昭和44年に開学されたとありますが、開学時から短期大学は女子学生のみでしょうか。

A：【全体】

開学時より男女共学です。ただ開学当初は児童教育学科のみ開設されていたため、必然的に女子学生だけでしたが、音楽科の設置、保育職へのジェンダーレスなどにより、男子学生も僅かながら在籍しています。

■訪問調査（香蘭女子短期大学から高松短期大学への質問事項）

Q：短期大学は3つのポリシーを定めることを求められています。そのガイドラインが文部科学省から示されています。高松短期大学は見直しを重ね、この方針を平成27年度に学則に定め、質保証として素早い動きですばらしいと思います。

3つのポリシーのガイドラインを見たところ、さまざまな条件があります。高松短期大学のカリキュラムポリシーを確認したところ、両学科ともキャリア教育や初年次教育について盛り込んでありますが、ここをもう少し明確にして項目を入れていくのかどうか、それらのカリキュラムの中での考え方を教えてください。

A：【保育学科】

3つのポリシーは平成28年度全学的に見直しを行い、新たに作り直しました。平成30年度入学生から適用し、平成29年度は旧のポリシーで入試等を行う予定です。

新しいポリシーは、短大全体のポリシーと学科のポリシーに分かれています。短大全体のポリシーの中に「基礎学力を強化し」という文言があり、保育学科ではそれが初年次教育にあたりと解釈しています。学科自体がキャリア教育をめざしているため、ポリシーのキャリア教育に特定した箇所を明確にお答えすることはできません。実際にカリキュラムの中では保育職基礎演習という授業を初年次教育として位置づけており、以前から実施しています。

【秘書科】

平成30年度より新しいポリシーになる予定です。新しいポリシーの中に初年次教育を明言している箇所はありませんが、「基礎学力を強化し」、「就職活動を見据え」がこれに該当します。また、キャリア教育は、キャリアを見据えたものになるように、以前のものより具体的な表現に変更しています。

Q：就職関係に関しては、公立幼稚園・保育所の合格者が多く素晴らしいと思います。幼保

専門教養特別演習の内容について教えてください。

A：【保育学科】

向学心が強い、優秀な学生に公務員にチャレンジしてほしいという願いから、幼保専門教養特別演習を開設しました。公務員を受験する学生のため、筆記試験一般、専門の勉強方法を扱っており、特に力を入れているのは面接指導で、一次試験突破後の二次試験の実技と面接の指導です。時期によって変わりますが、まずは勉強の方法から始めます。特に、一般教養科目の解き方を習得する必要があります。キャリア支援課のサポートを得て、外部講師を招聘することもあります。授業の中で専門科目も含めた勉強の方法の解説や、ミニテストなどを振り返りながら行っています。面接指導はさまざまな自治体の特徴や、子育て支援政策を勉強します。これに関して知っていないと面接で答えられません。自分と自治体とのつながり、自分が自治体でどう貢献できるかを言葉にできるよう自己アピールに変え、指導のなかで立ち居振る舞いや表情の作り方なども練習します。また、デッサン、ピアノ、体操なども小グループに分かれて指導しています。

Q：科目に定員は設けていますか。

A：設けていません。近年は受講人数が多くなっています。教員負担が増えますが、人数が多いと指導に時間を割くことが難しいため、小グループに分かれた指導も行っています。

Q：専任の先生も指導しているのですか。

A：実技に関しては行っています。

Q：(公立幼稚園・保育所) 試験を突破するために課題や、特別なテキストを作っていますか。

A：【保育学科】

特別なテキストは作っておりません。学生に対しては、各自治体の取り組みをレポートにまとめたり、それに関連付けて自己をアピールする課題を課しています。面接では当該自治体と受験者とのつながりなど、さまざまな質問があります。面接練習を通してその答え方、答える内容の指導を受けています。学生の中には、自学自習で午前8時ぐらいから学生研究室に集まったり、授業終了後から午後8時まで勉強している者もいます。平成28年度は22名が受講しています。

Q：秘書科のスタートダッシュ検定について教えてください。また、実際に専門教育的な内容をコースで学んでおられますが、就職とつながっているのでしょうか。

A：【秘書科】

スタートダッシュ検定は、3コースそれぞれで実施しています。コース選択によって、将来に沿った勉強をしてもらいたいので、入学前教育で説明を行い、希望するコースに所属してもらいます。4月から各コースのスタートダッシュの勉強をします。コースの約半数の学生がそのコースに沿った就職となり、残りの半分は別の方面に進んでいます。

Q：最初から専門的な科目が多くて、教養が希薄にならないでしょうか。

A：就職活動では、先に資格を取っておかないと就職活動でアピールできません。その後、2年生になってから教養科目を意識して取得するようにカリキュラムを組んでいます。

Q:秘書科の学位授与の方針を達成するための8つの項目はわかりやすいと思います。ただ、学生に対しては、項目に別の名前をつける等の工夫をすればさらに理解しやすいのではないのでしょうか。

A:【秘書科】

今後検討したいと思います。京都光華女子短期大学のホームページを参考に、コースごとのポリシーを作ってみてはいいのではないかと学科内で話しているところです。

Q:短大に入ってくる学生は多様化しています。その中でも保育学科の学生は、職種が決まった状態で入学してきます。卒業延期になる学生はいますか。それはどれぐらいの割合か、また、再履修の方法を教えてください。

A:【保育学科】

卒業延期になる学生は、病気による休学がほとんどで、ここ3年間で6名いました。うち3名が復学し、この3月に卒業予定です。再履修に関しては、次年度に1年生の科目を受講することもあります。担当教員が通常の授業とは別に授業を開講するなど柔軟に対応しています。

【秘書科】

平成25年度卒業生 1名卒業延期（1年間の短期留学のため）

平成26年度卒業生 2名卒業延期（1名は休学中のため）

平成27年度卒業生 1名卒業延期

カリキュラムを変更した場合、特別措置を取っています。

Q:本学では実習園の評価によって再実習になる学生がいます。高松短期大学ではいかがでしょうか。

A:【保育学科】

実習園が最低の評価をすることはほとんどなく、巡回指導担当教員が実習生の様子を見ても、ほとんどの場合で生き生きとしています。保育実習や教育実習で評価に値しない学生はおりません。保育学科では実習指導を細やかに行っており、また、通常の授業では10回以上の出席が課されていますが、多くの科目で独自に12回以上の出席を課しています。ただ、5回や3回欠席することができるという考え方ではなく、1回でも欠席すれば授業担当教員からの指導や研究室担当教員からの指導が入ります。そういったところから、実習に対する意欲を失わずに、目的をしっかりとって日々生活しています。実習には不安もありながらも、楽しみという気持ちを持つことができるよう指導しています。

Q:なかには意欲が低い学生もいらっしゃるでしょうが、入学時の意欲の継続方法について教えてください。また、入学当初の学生たちのなかで保育に対するイメージのずれが生じた場合、何か支援をしていらっしゃいますか。

A:【保育学科】

特に定まった支援はありませんが、本学では建学の精神に掲げられているように対話を重視しており、入学後は少人数の研究室に所属します。その中では、教員と学生の距離が近く、毎日のように対話を重ねていくことで、信頼関係を築いています。研究室活動においては、教員の専門性を活かした活動をするだけでなく、親睦行事などを行って信頼関係を深めています。また、学生同士が同じ目標を持っているのでお互い高め合っている面もあります。教員と学生は、ある意味では歳の離れた友達に似た関係であるため、本音をつかみやすく、対話のなかで学生の意欲等を把握することができ、叱咤激励しています。

Q：研究室活動は開学当時から実施しているのでしょうか。

A：【全体】

本学は、幼稚園を開設後に短期大学が創立されました。幼稚園の運営のなかで、①母親教育、②幼稚園では専門性が重要であるという結論に至りました。短期大学で大切なのは、学生と教職員が同じ目線で教育していくことです。その場合、同じ場所を共有することが重要で、いつも一緒にいるというのが研究室活動の原点です。現在は、教員研究室の前に学生用の研究室を配置しています。いつでも学生と教職員が平等に話し合いながら、学生の支援をしています。その場作りを土台に、教員の専門分野や、学生生活、就職に関して話ができるようになっています。

Q：人数が多くなると満足度が下がる傾向があると思いますが、研究室制度は何人ぐらいまで対応が可能なのでしょうか。

A：【全体】

過去 20 年間では、最大 40 名程度の場合もありましたが、現在では、20 名程度です。設置基準の教員の数で概ね対応できると考えています。

【保育学科】

保育学科は、現在定員が 80 名、8 研究室あるので、機械的に分けると 1 学年 10 名程度、多くても 12～13 名程度です。

Q：秘書科のスタートダッシュ検定にも関係しますが、4 年前のカリキュラム等を変更した際には実務教育協会の資格が多く、カリキュラムが肥大化していないのでしょうか。今後、取得する資格を絞っていかないのですか。教員の負担も増えるのではないのでしょうか。

A：【秘書科】

4 年前は、コースの中身を考えて、実務教育協会の資格を取り込むことができるのであれば取り込もうという考えで始まりました。実務教育協会の資格に関する制度が改正されて、緩く取り込むことができるようになりました。今年の 6 月に改定となって、中身が問われるようになったため、今後は精査していかなければいけないと思います。当時は、無理に実務教育協会のために変更したわけではありません。

Q：香蘭女子短期大学では、クラス単位、すなわち大きな集団での授業が多いため、集団の

力を活用するといったメリットはあるものの、一人ひとりの学ぶ姿勢や意欲をどのように高めていくか課題となっています。また、シラバスによって学生に授業の取り組みの姿勢をどのように高めていくか考えています。高松短期大学において、Webと印刷で公開されているシラバスで、先生方の求めていること、準備学習や準備学習の時間などに関してどのようにお考えかを教えてください。また、シラバス作成要領を見せてください。

A：【全体】

第三者評価も鑑み、シラバスを見直そうということになりました。これまでは、項目等に関して基準が定められていたもののゆるやかで、内容については細かい決まりはなく、文章量もばらばらでした。これらを統一しようということとなり、学生が見てシンプルでわかりやすい表現のシラバスになるように変更しました。例えば、到達目標であれば、学生を主語にするように指定し、学生は「授業を受けると〇〇ができるようになる」という表記に統一しました。授業の紹介についても、学生がわかりやすいと感じるよう、シラバスの作成要領に手を加えました。授業時間外の学習については、1単位45時間にあてはめると、現実には、徹夜をしてでも不可能です。今年度についてはまだわかりませんが、昨年までは正直に言えば達成できていません。

香蘭女子短期大学：香蘭女子短期大学では、できることから始め、課題を出すなどして、授業時間外に最低30分でも学習できれば良いと思って取り組んでいます。

Q：秘書科の「実習評価表」について教えてください。

A：【秘書科】

実習評価票はさまざまな評価のひとつで、実習を評価するものとして作成しています。3つのコースで2年次に2週間の実習を行います。コースの特性を活かした実習先で実習（インターンシップ）を行っています。実習先に評価をお願いする評価表です。

Q：就業力ポートフォリオを作成する時期を教えてください。

A：【秘書科】

入学後にすぐに、2冊（就業力ポートフォリオ、学習成果診断カルテ）を配布し、研究室単位で進めていきます。学習成果診断カルテは、成績に関する内容が中心で、半年に1回、目標を書かせて振り返りをさせます。それに対して教員が確認してコメントを書きます。半期ごとに通知される成績を記入させています。その科目で何を学んだのか、教員の評価点も記入し、自己評価でも点数をつけ、それを基にグラフ化します。半年ごとの作業により、4つの点のグラフとなり、上昇と下降が一目でわかるようにしています。次の半年の意欲を求めるような材料としています。

就業力ポートフォリオは、社会人基礎力と検定を中心とした項目で構成されています。半年に1度、社会人基礎力の点数を算出させて、レーダーチャートとして綴っています。そうすると、レーダーチャートの面積が広がり、12の力のうち、どれが伸びているのかなどが学生自身でわかります。それにより、これからどの部分を伸ばしていきたいのかを考えることができます。

また、半年の検定の取得状況も記入させ、取得できた理由を記入するようにしており、これらは学位記授与式で、卒業研究も含め返却しています。

コミュニケーションを取るために、Web化はせず手書きでコメントを記入しています。この取り組みは、入学から卒業まで、学生にきちんと関わっていくために、スタートダッシュ検定から実習、卒業研究につなげて実施しています。2年間の学びが全てここに綴じられます。これにより卒業後の「見える化」を実現している。学生は、「見える化」によって、学習意欲が出てきたのではないかと感じています。

Q：香蘭女子短期大学では、昨年度の入学前教育の出席率が（県外の学生もいるので）8割ぐらいでした。秘書科では12月に入学前説明会、3月に入学準備セミナーが行われているが、クラス分け試験は実施していますか。また、実施しているのであれば、欠席した学生のクラス分けはどのように行っているのでしょうか。

A：【秘書科】

12月の入学準備セミナーでは96%の入学予定者が出席しました。入学前教育については、日程が高校行事と重なることもあるため、12月に欠席した学生は、3月末に出席するように周知、それでも参加できない場合は、入学式後に基礎学力試験を行い、全員が受けてからクラス分けを実施しています。クラスに関しては、習熟度別、コース別、履修者によるクラスなど3つほどあり、習熟度別クラスではこの基礎学力試験の成績、英語の授業は英語の試験結果のみに基づき分けています。平成28年度はタイピングについても実施しました。髪の色等についても指導しています。

Q：秘書科の「入学準備セミナー」はクラス編成や入学後の指導に有効だと思います。活用はされていますか。

A：【秘書科】

基礎学力調査（英語、国語、数学）を行い、クラス編成をしています。

クラス編成には2種類あり、3科目の合計点による専門科目のクラス分けと、英語の点数による全学共通科目である英語のクラス分けがあります。

Q：「入学準備セミナー」は入学予定者の全員が参加するのでしょうか。

A：【秘書科】

入学が確定している学生は全員案内します。出席率は、平成28年3月：96.0%（48/50人中）、平成27年3月：98.4%（64/65名中）、平成26年3月：97.9%（48/49名中）です。

Q：保育学科の卒業生3名からの定期的な聞き取り調査の共同研究について教えてください。

A：【保育学科】

地元出身の学生が多い中で、1ヶ月、3ヶ月、半年後など、卒業生が大学に立ち寄ることが頻繁にありました。その卒業生たちは、ただ話したいという学生が多く、本学としても、卒業後のケアやそのようなケアができる教員を育てる目的で、今回の共同研究を実施するこ

ととなりました。卒業生3名と定期的に出て話をするなかで、就職後の園の子どもの様子や保育の様子、園の先生との関係性を話してもらったり、自分自身の学びの実感や保育学科の教員や大学に対する要望など、様々なことをよく話してくれます。最長で2時間ぐらい話したこともありましたが、共同研究としたことで、卒業後の学びが続いているのだと実感した。3人の共通点は、見ず知らずの人に話すのではなく、在学時の自分を知っており、就職先のことでもよく知っている研究室担当教員に話すため、「話しやすく楽だった」、「楽しかった」、「頭の整理に役に立った」などの感想がありました。まだ、全てまとめられているわけではありませんが、教員の役割も在学中のみならず卒業後も何かできることがあるのではないかと考えています。

Q：養成校では、現場への働きかけ、保育者同士のコミュニケーションなどを学生たちに教えないといけないと思っていますが、高松短期大学ではいかがですか。

香蘭女子短期大学では、卒業後に話しに来てくれたり、20年前に卒業したような学生から電話がかかってくることもあります。研究としてまとめた後にぜひとも教えていただきたいと思います。

香蘭女子短期大学近隣の養成校では早期退職も多いのですが、高松短期大学で早期退職する卒業生はいらっしゃいますか。

A：【保育学科】

早期退職する卒業生はいます。5月までに辞めるのは、1～2名程度です。退職した卒業生に聞くと、「思っていた園と違っていた」、「保育は自分には向いていなかった」などのミスマッチが多いように思います。

実習指導はもちろん、在学中から、保育アルバイトや保育ボランティアを通して就職したい園探しをできるだけ早い段階からはじめ、就職試験で初めてその園を訪れるという状況は限りなくゼロに近づける努力はしています。平成28年度の1年生で夏休みに保育ボランティアに従事した者は半数を超えています。ボランティアに行くことで、少しずつ自分のことを知ってくれる、自分も園のことを知っていくということになり、お互いの絆づくりの効果はあると思います。

Q：香蘭女子短期大学でも実習（保育ボランティア）は半数以上の学生が行ってレポートを提出しています。しかし、内定後の研修が始まると、研修と実習を同じに考えてしまう学生がいます。研修時に就職を断念する学生もいます。離職に関しては一番悩ましいことです。人間関係が表に出てきているのではないのでしょうか。

A：人間関係は退職の一番の理由にあがっています。保育ボランティアを薦めるときにも、人間関係を観察するよう指導をしています。そのことが自分の就職先選びに大事であるということが、ほとんどの学生が自覚しているのではないのでしょうか。

Q：FD・SD活動について詳しく教えてください。

A：【全体】

SD活動は年2回、企画課で内容を検討して実施しています。これまでに開催したタイト

ルをご紹介すると、平成 26 年度第 1 回「大学職員のための企画力養成校座」(SPOD 講師)、第 2 回「マイクロソフトオフィス・ワード・エクセルの概要と実践」(本学教員)、平成 27 年度第 1 回「教育の質的転換と本学の財務状況について」(事務局長、会計課)、第 2 回「メンタルヘルス」(本学教員)、平成 28 年度第 1 回「大学組織を理解する」(SPOD 講師)、第 2 回FDと合同で「初年次の学生指導のあり方」(学科による発表とグループワーク、FD・SD 合同研修)で実施しました

本学は、SPOD(愛媛大学が中心、四国内 32 の高等教育機関が参加)のネットワークに参加しています。SPODは、FD・SD事業の推進と大学等の教育力向上を図るための組織であり、SPODが企画する研修会にも参加できるようにしています。本学でも、毎年 2 回のFD・SD研修会の何回かは、SPODの研修メニューを利用して、愛媛大学の講師の方に来ていただいて研修を実施しました。また、平成 29 年 4 月からSDの義務化に向けて、本学では、「高松大学・高松短期大学SD活動推進委員会」を発足させ、教職員が合同で研修会を推進する委員会を立ち上げます。

Q：出席について、遅刻や早退を点数化していますか。

【保育学科】

A：保育学科では、チャイムの鳴り始めに着席していない学生は欠席として扱います。保育者として、ルールやマナーを守ることは大切です。交通機関がやむを得ず遅れた場合は遅延証明書、就職活動のための欠席については欠席届を提出させることで対応しています。遅刻や早退を点数化してはいません。

【秘書科】

秘書科の学生は、欠席はほとんどいませんが、遅刻は数名います。先生によって、チャイムが鳴った後は欠席にする教員がいたり、10 分までは遅刻扱いで、3 回遅刻が続くと欠席扱いとするなど、教員によって様々です。

香蘭女子短期大学：遅刻は 30 分までと全学で決めています。高松短期大学は初年次教育が結果につながっているのではないかと感じました。

Q：Webで履修登録、シラバスの確認、休講・補講などの情報を容易に閲覧できるようになったことは学生にとって便利だと思います。詳しく教えてください(Webで済む分、登校しない学生がいないか、業務改善にどうつながるか等)。

A：【保育学科】

保育学科では、半期ごとの履修説明・指導の時間を全教員参加で設けています。学年初めに一年間の履修登録を済ませ、必要に応じて後期初めに履修変更させます。しかし、途中の履修変更はほぼありません。次に、シラバスの確認はWeb上で受講前に学生個々で行うほか、第一回目の授業で一緒に確認しています。最後に、休講・補講については、早めの教員からの連絡・掲示が常です。どちらかと言うと、保育学科生は毎日登学し、掲示板をチェックするのが習慣になっています。受講する科目・時間割もほぼ一緒なので、授業内での教員からの連絡がなかったとしても、休講・補講の情報は共有しやすくなっています。なお、台

風等による警報発令時の休校（講）については、学生便覧にあるとおり必要な情報を高松大学・高松短期大学ホームページに掲載し、補講等については後日掲示等により周知しています。Webの利便性を生かしながらも、日頃の掲示板チェックや教員と学生間の報告・連絡・相談の習慣化を大切にしています。

【秘書科】

秘書科の場合は、履修指導を受けないと履修方法が分からないので、現在までに登学しない学生はいません。

【教務課】

学科毎のオリエンテーションで、出席管理をし、履修指導・履修相談を行っているため、Webで済むから登校しないということはないと思います。

業務改善については、すぐに改善につながることは少ないですが、経費削減の面では、シラバスの印刷製本を止めたことで、経費が節約されています。

Q：ハワイ大学の海外研修の内容について教えてください。

A：【全体】

学生課が担当となっており、開始の1年前に海外研修場所を決め、平成27年度はアメリカ合衆国のハワイ大学マウイカレッジと中国西安外事学院での海外研修を企画・募集しました。西安外事学院コースは募集がなく、ハワイ大学マウイカレッジのみでの開催となりました。ハワイ大学マウイカレッジとは平成24年度より協定を締結しており、毎年12日間で研修を行っています。平成26年度は募集人数に達しなかったため、実施していません。平成27年度の参加者は7名（うち大学6名、短大1名）で、平成28年2月28日から3月10日までの12日間で実施しました。附属の語学学校のマウイランゲージインスティテュートで研修を行いました。語学研修だけでなくフラダンス、レイ作りの文化体験やマウイ・オーシャンセンターやラハイナの町での校外学習、ホエールウォッチングやハレアカラ登山などマウイの自然に触れるアクティビティを行うプログラムを実施しました。また、ホームステイを利用し、マウイの住民と交流しました。

プログラムは先方と打ち合わせをしており、語学勉強とアクティビティを組み合わせで行っています。

香蘭女子短期大学：保育学科では、ハワイの幼稚園に行って実際に体験しています。

Q：クラブに関して、四国高松学園オーケストラ、剣道部の活動について教えてください。

A：【全体】

四国高松学園オーケストラは平成27年度に活動を停止。剣道部は存続はしているが、実際人数が少なく休止になっています。

香蘭女子短期大学：クラブで大学をアピールしたいがなかなかできていない状況です。

Q：「香川県の大学等魅力づくり補助金」を活用した「高松短期大学の地域創生人材育成推進事業－「あったかい短大（あつ高短）」のふるさと入学ふるさと応援プロジェクト－」について

てどのようなことをしているか教えてください。

【企画課】

香川県から、県内の大学、短期大学及び高等専門学校が自らの特徴を生かして行う「魅力ある大学づくり」を支援し、県内高校生の県内大学等進学及び県内就職の促進を目的として、平成 27 年度から「香川県大学等魅力づくり補助金」に取り組んでいます。本学では、補助金を活用し、平成 27 年度からの継続事業として平成 28 年度に高松大学、高松短期大学で「高大接続」、「教育内容充実」、「就職支援」をあわせて 12 の事業に取り組んでいます。また、平成 27 年度には補助金を活用し、大学紹介ビデオを制作しました。

【保育学科】

保育学科では、平成 27 年度より県から補助金をいただいて香川県から高校生の流失を防ぐことを目的に実施しています。保育学科では、本学の卒業生で幼稚園・保育所に勤務しているOB・OGに協力いただいて、保育職の意義ややりがい、保育学科で学ぶ魅力等を収集し、データ分析を行いました。分析の結果、香川で求められる保育者像を構築しました。それらを基に研究大会を開き、高校生や保護者、高校の教員に情報発信することで、保育職の関心を高めていただき、また保育学科の進学希望者の増加に努めました。

平成 28 年度は、高校生に保育を体験してもらう「保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー」を実施しました。これは、単なる職場体験ではなく、香川県の 2 つの保育所で保育士から、言葉がけや遊びの意味を教えていただきました。また、本学を卒業した保育士に講演をしていただいた後、大学に戻り、主任保育士と振り返りを行いました。これらの事業を通して、保育士の魅力を発信し、保育士への意識が高まればよいと思っています。また、ひいては本学への進学につながればよいと思います。ツアーは好評で、平成 29 年度も同様のツアーを予定しています。

Q：高校生は学年を問わないのか。

A：どの学年でも受け入れます。ツアーに参加した高校 3 年生の多くは本学へ進学しました。

Q：大学コンソーシアム香川について教えてください。

A：【全体】

大学コンソーシアム香川は、香川県内の大学、短期大学及び高等専門学校が相互に連携・交流し、香川県内の教育の質的向上を推進するとともに、地域社会の発展に寄与することを目的とし、①県内大学等の情報の提供・広報に関する事業、②県内大学等相互及び地域との交流・連携を促進・支援する事業を実施しています。

平成 27 年度には、県内大学等の紹介や県の「魅力ある大学づくり」についての広告記事を地元新聞に掲載しました。また、県内大学等合同進学説明会を実施し、県内高校 5 校（県立 3 校、私立 2 校）で合同進学説明会を開催しました。平成 28 年度には、平成 27 年度の事業に加え、県内の公園や美術館等の施設に学生証を提示して無料で入場できるキャンパスメンバーズ制度の導入、希望する高校にパンフレットラックを設置するなどの事業を行いました。

6. 相互評価結果

(1) 香蘭女子短期大学に対する総括講評

2年間という短い在学期間のなかで、学生がいかに充実した日々を送ることができるか、そのために最適な方法は何か、そして「入学してよかった」と学生が思う大学づくり……これらはおそらく大半の短期大学の最重要課題と言っても過言ではないでしょう。四年制大学と比較すると短期大学の2年間は忙しく過ぎていきます。とりわけ保育系の短期大学は空きコマがほとんどないのが現状です。

そのような状況にあって、香蘭女子短期大学は学生がほっと一息つくことのできる多くのスペースに椅子とテーブルをバランスよく配置し、学びの環境に配慮するとともに、学生の心に寄り添っている印象をまず受けました。椅子とテーブルを単に置いているだけではなく、空間の用い方に優れたセンスを感じました。授業と授業の間のわずかな時間、あるいは空きコマ、ピアノの練習の休憩などにゆったりと使用でき、あるいは学生たちの語らいの場としての配慮を感じました。

香蘭女子短期大学ではクラス制を導入し、クラスアドバイザーが学生と密に関わっており、入学から卒業まで細やかな指導を実現しています。そのためのPDCAを明確に定め、年度ごとに検討することで、より質の高い教育活動をめざしていることは高く評価できます。

細やかな指導には学生との関わりが欠かせません。個人面談を実施したり、教員側からの積極的な関わりを目の当たりにし、大学、学科、クラスアドバイザー、サブアドバイザーの連携により、手厚いサポートが実現されていることを感じました。

このような教職員の熱心な指導とともに、「学習成果賞」、「コース修了賞」など、学生の意欲を高めるための仕組みが構築されていることも評価できます。

また、「4学期制」への移行という、新しい試みも評価できる点です。短期大学では全国的にもまだ新しい試みであり、実際に2学期制から4学期制への変更にあたっては多くの困難な問題に直面したことと推察いたします。しかし集中的に学ぶことが可能な4学期制に適している科目が存在することも事実であり、本学においても見習うところが多々あります。

教育の質保証に対する取組はもとより、学生生活を含む入学から卒業までの指導体制が充実し、各部署がスムーズに連携しながら、学生一人ひとりを支えていることを、とりわけ訪問調査の折に感じることができました。

(2) 高松短期大学に対する総括講評

これからの短期大学は地域における高等教育機関として大きな役割を担うものと思われる。高松短期大学にはその視点から見ても多くの優れた取り組みが見られました。1点目として研究室制度が挙げられます。学生は入学直後から2学年計20名程度の在籍者から構成される研究室に所属し、教員、先輩後輩や同級生とのつながりを持つことができます。適切なサイズの集団の中で同じ目標を持ちお互いに高め合っていくことができます。また研究室をレポート等の課題作成や就職試験の勉強等、授業時間以外の居場所に利用することができます。学生の学習成果の獲得に役立つ環境となっています。2点目は建学の精神に掲げられているように対話を重視していることです。教員と学生の距離が近く、対話を重ね信頼関係を築い

ておられます。教員は授業の開始前に教室に行き対話を行っているというお話をうかがいました。授業の欠席者が少ないことはそのような関係づくりの成果の1つと考えられます。保育学科では細やかな実習指導が行われ、実習先での評価も良いとのこと。3点目は、地域の就職先との強いつながりです。保育学科では県内ほぼすべての現場に卒業生が在職しておられます。秘書科においても毎年90%程度の学生が県内で就職しておられます。先に述べたような取り組みが学生の実践力の基礎を作り、地域に貢献する人材の育成が可能となっているように思われました。秘書科では入学直後から就業力ポートフォリオと学習成果診断カードを作成しておられ、学生は半年毎に自身の振り返りを行い次の半年の意欲づけを行うことができます。1年次後期の検定合格を目指した「スタートダッシュ検定」も見通しと自信を持たせる優れた取り組みと思われ。また秘書科における「実習評価表」も就職先における必要な力を意識できる良い取り組みです。保育学科においては公務員受験対策を行っており公立幼稚園・保育所への現役合格者が増加傾向になっていることは素晴らしいことだと思います。4点目は地域との連携です。多くの取り組みがありますが、平成27年度からは「香川県の大学等魅力づくり補助金」を活用した「高松短期大学の地域創生人材育成推進事業―「あったかい短大（あっ高短）」のふるさと入学ふるさと応援プロジェクト―」において様々な事業を行っておられます。「保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー」は、本学においても地域連携・地域支援の参考にしたいモデルです。

高松短期大学は、建学の精神に基づき社会に貢献できる人材をしっかりと育てておられる高等教育機関であることが今回の書面調査・訪問調査から理解できました。

7. あとがき

平成 29 年 2 月 22 日（水）と 24 日（金）、香蘭女子短期大学と高松短期大学との相互評価を実施しました。

書面による質問、訪問調査、施設見学を経て、学生の質保証、学びのための物的環境、そして人的環境等に対する絶え間ない努力、取り組みを目の当たりにしました。

今日、多様な学生を受け入れている短期大学においては、学生一人ひとりに対するさまざまな支援が不可欠となっています。そのためには学生との日常的な関わりが欠かせません。授業はもとより、授業以外の時間で学生とどのように関わり、どのように支え、社会に送り出すべきか、これからの短期大学において重要な課題であると考えます。

今回の相互評価を通じて、香蘭女子短期大学及び高松短期大学は互いに評価できるところを数多く学ぶことができました。良いところは積極的に取り入れ、社会人として、そして人として、社会に貢献できる学生の育成に努めて参りたいと思います。

高松短期大学 ALO 出木浦 孝

今回の相互評価は高松短期大学へ香蘭女子短期大学からお願いすることから始まりました。第三者評価とは異なり、特定の短期大学とじっくりと教育のあり方について意見交換を行いたいということで、地域性を考慮し高松短期大学にお願いしました。

短期大学での学生生活はあっという間です。入学時点から、学生を支える環境づくりや関係づくりを行うこと、学生の学びの意欲づけを行うことが重要となるかと思います。青年期にある学生という発達特性に配慮しながら、卒業後は社会人として現場に出ていくことを踏まえ、2年間で学生たちの成長をどう支え、援助を行っていくか。他の学校種とは異なった短期大学特有の教育のあり方について、これからより明確に打ち出していく必要があると思います。

今回の相互評価により、高松短期大学及び香蘭女子短期大学は短期大学の教育について学びさらに考えを深める機会となりました。地域・社会に貢献できる人材の育成に今後とも努力して参りたいと思います。

香蘭女子短期大学 ALO 濱田 尚志

平成28年度
香蘭女子短期大学・高松短期大学
相互評価報告書

発行日 平成29年3月31日

編集 香蘭女子短期大学・高松短期大学

発行 香蘭女子短期大学

高松短期大学

〒811-1311

〒761-0194

福岡県福岡市南区横手1丁目2番1号

香川県高松市春日町960番地

TEL 092-581-1538

TEL 087-841-3255

FAX 092-581-2200

FAX 087-841-3064

URL <http://koran.ac.jp>

URL <http://www.takamatsu-u.ac.jp>